

宗方小太郎日記，明治 39～40 年

大里 浩 秋

1. はじめに

本所報 No. 37 に宗方小太郎の明治 21 年の日記（中国滞在時期のもののみ）を載せ、No. 40 に明治 22～25 年、No. 41 に 26～29 年、No. 44 に 30～31 年、No. 46 に 32～33 年、No. 47 に 34～35 年、No. 48 に 36～38 年の全部を載せた。今号ではその続きとして、明治 39～40 年の宗方の手書きの日記を全て活字に起こすとともに、解題をつけることにする。

前回までと同じであるが、お断りすべきことをいくつか記す。解読できなかった文字は今回もあり、文中では□で示した。また、明治 39 年の 11 月 30 日から 12 月末までの日記には、水分に浸かったために生じたと思える穴があいて読めなくなっている個所があり、その部分にも□を付した。さらに、原文のカタカナは西洋の人名、地名、普通名詞のカタカナ表記を除いてひらがなに改め、漢字の旧字体は新字体に改め、適宜句読点を加えたが、日本の人名の漢字は原文のままにした。私の解題中での原文の扱いも同様である。日記の解読と入力作業は、本学中国言語文化修士課程修了（文学修士）の増子直美さんに手伝ってもらった。

2. 明治 39 年 1 月から 12 月までの日記

明治 39（1906）年の日記は、1 年を通した一綴じになっている。宗方自身がのちに整理した時に書き加えたと思われる日記の出だしの部分にある「明治三十九年丙午正月 上海」からは、この年はもっぱら上海に居たと読めるのであるが、実際には 6 月初めから 7 月末までは熊本に戻り、その後家族（妻と娘）を連れて上海に渡り、また 9 月中旬に熊本に帰ってそれまで住んでいた家を処分した後、11 月初から京都、東京と移動し、さらに名古屋、京都、奈良、大阪と短期間ずつ滞在してから、長崎経由で 12 月下旬にまた家族を連れて上海に渡るというあわただしい動きを示している。

さて、この年の正月は、前々年の 12 月に赴任し、前年は 11 月に日本から戻って仕事に復帰している上海の東亜同文書院で迎えた。前々年の日記に院長代理を引き受けるとあったので、そのつもりでこれまで書いてきたが、のちに触れる『東亜同文会報告』には「監督」とあるので、以後はこの職掌を使う。宗方は、前年正月同様元旦「聖影を拝し勅語を奉読」して新年の儀式をとり行っており、その後も書院の仕事をこなしている様子が記されているが、3 月 6 日に東亜同文会本部から、宗方が「代表して南京に赴き三江師範学堂の紛擾を処分」するよう指示があり、南京に出かけることになったが、あとで触れる事情から実行しなかった。

この時の三江師範学堂の事件とは、東亜同文会幹事長根津一の同会春季大会における報告（「春季大会記事」、『東亜同文会報告』第 79 回、明治 39 年 6 月 26 日）によると、「昨年秋総教習と教習との間に不和を生じ……一時融和せる有様なりしも、今年に到り又々不和を生じ其勢日に甚だしきに至りたれば、該学校長は充分の好意を以て一案を立て、総教習の下に副教習を置き教習の事は校長自ら直轄する

ことにせんとしたるも紛騒到底収まらず、而して本年四月満期の・・前に同文会より推薦せる教習は二名の外悉く続聘せざる事となりたり」とのこと。

この年も、それまでと同様海軍軍令部あての報告を時々書き送っているが（後述）、他に、2月27日に漢口、福州、湖南、天津、北京の日本人の知人に手紙を書き、また、各地に駐在する外交官に「二三事項の調査を依頼」し、その後3月に手紙を出した複数の相手から返事が届いているのは注目される。この動きが、宗方が海軍宛に報告をまとめる際の情報収集に当るのか、あるいは『東亜同文会報告』に反映させるための資料になるかは不明であるが。

4月10日に長岡護美東亜同文会副会長が亡くなったとの電報が届いた（実際に亡くなったのは8日）。東亜同文書院では同18日に追悼会を開き、宗方が書院を代表して弔辞を読んだことは日記に記しているが、『東亜同文会報告』第78回、「故長岡副会長追悼会」、明治39年5月26日によると、書院「監督」宗方名の漢文で書かれた「哀詞」が載っているのである。なお、この年に亡くなった宗方ゆかりの人物としては他に、済々黉在学時代の恩師で、最初の訪中のお伴を命じてその後の中国との関係ができるきっかけを作ってくれた佐々友房がいる（9月28日死去）。

ところで、この年一番目につくことといえば、夫婦間に何らかの摩擦が生じて、宗方がその解決に苦慮している姿である。摩擦の詳細は無論知る由もないが、3月3日に「宅より余の身上に関する件を云云し来る。……眠らずして天明に至る。返書を作る」に始まり、同17日には三江師範の処理で南京に向かうはずを、「心気不舒、事を以て南京行を中止す」と書き、その後もしきりに妻との手紙を往来して、ついに5月29日になって、妻からの手紙に「通読一過両腋生風の思有り、積憂頓に一掃す」とし、根津院長が6月6日に書院に戻ってくるとの知らせに対しても、「帰心矢の如く之を待つに遑あらず」として、6月2日には帰国の船に乗っているのである。

その後熊本に滞在して、夫婦間の問題が一件落着いたようであり、8月2日には初めて妻と娘を伴って上海入りし、同文書院の仕事に復帰するとともに、2人を蘇州、杭州の旅に連れて行き観光地を案内しつつ両地に在住の日本人の大歓迎を受けている様子を記しているのは、情報の少ない当時の両地の状況を知る上で貴重である。そして、9月中旬また妻子を連れて日本に戻り、10月には熊本の家を処分し、東京、京都を中心に各地を観光を兼ねて移動した後、「是日家を挙げ熊本を辞し、清国に赴かんとす」と書いて（12月21日）、12月26日には妻子同伴で上海に着いている。長年自分だけで中国に発ち、日本に帰っていたのが、この年の夫婦間の摩擦を経て、家族ともども上海で暮らすことになったのである。この年、中国人との交際は極端に少なく、日記には姚文元、袁子莊の名前が挙がるのみである。

ここで、この年に書いた海軍宛報告の号数と日付けを日記から拾い出すと次のようになる。なお、『宗方小太郎文書』（以下『文書』と略称、原書房、1974年）中に収録されている報告類と照らし合わせて、そこには日付けが書かれていないもの、あるいは、そもそも収録されていないものについては日付けあるいは号数の前に※印をつけることとする。

1月19日—第167号、2月2日—日記には「報告を發し」とあるのみであるが、『文書』によると第168号を指す、※2月16日—第169号、2月16日—第170号、2月20日—第171号、3月8日—※第172号、※第173号、3月21日—「海軍々令部に支那鉄道図を郵送す」とあるのは、あるいは第174号の可能性あり、3月31日—※第175号、4月10日—※第176号、※第177号、4月16日—※第178号、4月23日—※第179号、5月7日—第180号、5月11日—※第181号、5月25日—※第182号、6月27日—※第183号（なお、第183号は上海社会科学院歴史研究所に所蔵されており、タイトルは「清国の政況、各大官の系統、皇帝皇太后の関係」である）。

明治三十九年丙午正月起

上海

正月元日 健晴。午前八時式場に於て 聖影を拝し勅語を奉読す。職員、学生来て正を賀する者多し。

正午職員、学生一同と会宴す。午後馬車を賃し上海の各知人を歴訪し年賀の礼を叙す。上海知人十余名来て正を賀す。是日詩有り。

椒酒醉成天地空，赤県草木亦春風，岷江一万三十里，浮将曙光朝日東。

正月二日 快晴。内外各地に年賀状数十通を發す。永瀧，白岩，村山，姚以下十数人来て正を賀す。午前阿多，遠山，土井等を訪て答礼し，滬報館に至り中食し，午後二時大東の小蒸気船にて井手，白岩，香月，河野等と軍艦宇治，対馬を歴訪し，井手の処にて晚餐の饗を受け，八時帰る。生田清範，渡部正雄，栗村，安河内，岡幸七郎，莊村，箱崎，本島，阿部野，青木，牛島，江口良吉の信至る。

正月三日 陰。内地諸友の年賀状至る。高橋，根岸，大平列来訪。夜石田榮来訪，明後日より天津税関に赴任すと云ふ。古閑次郎に紹介状を送る。

正月四日 陰。海軍々令部に発信す。是日より香月，大平と蘇州に獵せんとす。朝来之が準備を為す。午後三時半上車，書院を出て大東汽船会社に至り香月，大平と広陵輪船に搭ず。五時開船。晩食を船中に弁じ，閑話十時に至りて寝に就く。是月色高潔。

正月五日 健晴。午前七時半蘇州呉門橋の大東分局に達す。諸氏と小談。名刺を白須に送り，八時半寝具其他の携帯品を小舟にて石湖に送り，徒歩して横塘を過ぎ，九時半上方山下の獵区に達す。午前中鳩僅に一羽を獲，正午舟に帰りて中食す。午後又た出獵。鳩四羽を獲，五時舟に帰る。

正月六日 健晴。午前六時起床。石湖橋の北方河に浜せる寺院の廢址に於て鳩五羽を獲，午後上方山下に至て二羽を打ち，夜舟を横塘に下し泊す。

正月七日 快晴，朝濃霧。午前六時半起床。横塘附近に獵し鳩四羽を獲，十一時半蘇州大東公司に帰り主任名和某及び局員蔦某と談じ，午後一時白須直を領事館に訪ふ。靈巖に遊んで未だ帰らず，名刺を留て帰る。四時三人奉天輪船に乗り蘇州を發す。

正月八日 健晴。未明上海に達す。七時藤井，上多両生来り迎ふ。藤井，予が一行を撮影す。八時書院に帰る。根津，留守宅，生田，橘，小濱，内田，金島，角田 岳翁の信並に知人の年賀状三十五通に接す。夜高橋，渡邊を招き会食す。午後又た内外知人の年賀状二十二通を接手す。

正月九日 晴，暖気如晩春。午後三時山内崑を東亜公司に訪ひ神津の事を依頼し，去て同文滬報館に井手を訪ひ，八時帰る。井芹，渡邊申十郎，山田九郎，田代，内藤九一，角田，三島，狩野，古城，河口，寺崎，阿部野，徳満等の年賀状二十六通に接す。

正月十日 雨。田代に復書し，内外友人の年賀状に答ふ。藺村，町野玄同，瀬浪，大野弘，小田桐，角田，浅井，三浦等の年賀状至る。

正月十一日 陰寒。知人の年賀に答ふ。新羅，篠原，上多，山根，西田，岡，土屋，松本正純，根津等の年賀状十七通至る。勝木恒喜カステラ二箱を贈る。

正月十二日 晴。上多，篠原，松本，後藤等に復書す。午後上車，豊陽館に勝木恒喜の病を問ひ，二時井手に抵る。留て晩食す。井手明日を以て熊本に帰る。因て金三百九十円を留守宅に托送す。外に点心二匣を贈る。九時半帰る。留守宅に発信す。

正月十三日 土曜日。晴。熊本留守宅に発信す。午前出て井手の帰国を送り，午後二時帰る。是日森茂福州より帰来。夜土曜会を催す。若杉生来訪。

正月十四日 晴。午前六時井手友並に村松，宮崎両生と龍華に獵し，六時半帰る。僅に鳩二羽，小鳥一羽を獲たり。篠崎来訪。留守宅，澤村兄弟の信及び安河内釜山より信に接す。外に井原，江崎嘉蔵，内藤熊喜，藤本，市原，廣瀬，福島等の年賀状至る。

正月十五日 晴。午後三時より郊外に散歩す。夜学生数人来訪。是日京都高見克翁より名産の菓子味噌

松風一箱並に新年の詩歌各一首を贈り来る。知人の年賀状十八通に接す。

正月十六日 晴。高見克、莊村、中畑、前田彪、白岩列に致書し、並に各地友人の年賀状に答ふ。郊外に散歩す。福岡より晩食の案内有り。

正月十七日 健晴。根津に致書す。三時高橋、渡邊と郊外に散策す。夜白岩の信至る。

正月十八日 快晴。安河内弘に致書す。長野一誠、木野村、高垣、内田一雄等の年賀状至る。川本生来訪。

正月十九日 晴。海軍々令部に第百六十七号報告を發す。勝木恒喜来訪。午後二時大東公司に至り白岩に別る。其明日を以て帰国するに因てなり。四時勝木を豊陽館に訪ひ、五時共に出て酔月に至り、勝木の饗を受く。秦、阿野久、香月及び勝木夫婦也。八時半滬報館に至り、十時帰る。田鍋安之助、徳丸、宇土細川子爵の年賀状到る。

正月二十日 健晴。高垣英甫来訪。午後二時寄宿舎全体の検閲を為す。晩土曜会を催ふす。

正月二十一日 雨意。九時福岡禄太郎と浦東に獵す。雨至る。衣袂尽く沾ふ。僅に鳩一羽、鵲一羽を獲、風雨を衝き午後一時帰る。福岡より晩餐の案内有り、之に赴き、九時帰る。

正月二十二日 雨。奉天田鍋安之助、大連前原源太郎、金島文、旅順宇野海作に復書す。海軍々令部の報告領収書並に樗木少佐、角田政、上多、真藤駿士、瀬上、小川平吉、對馬機、田村忠一、岡辰喜、宮坂九郎、成松、高木来喜、丸山重俊、緒方二三、曾根原千代三等の通常書信並に年賀状至る。山口啓三来訪、本夕勝木と共に武昌に赴くと云ふ。勝木に致書して其行を送る。夜森、田岡、渡辺と会食す。

正月二十三日 雨。瀬上、小川、對馬、宮坂、田村、成松等の年賀に答ふ。是日洋服代十七円を払ふ。熊本角田政治に復書し、佐野直喜、鑄方徳藏の凱旋を祝し、別に西村天因に致書す。

正月二十四日 陰。生田清範の信至る。之に復書し、別に井原真澄に致書す。夜森茂、渡辺来談。午後阿多廣介来訪。

正月二十五日 快晴。是日支那元日たり。諸学科を休業す。午前同文滬報に至り、中食後帰る。

正月二十六日 晴。留守宅、本田選、清浦奎吾、本島、徳満の信並に小野、佐々干、高田早苗、辛島、木村万等の年賀状至る。夜七時より室長会を召集し、校風養成上の談話を為す。十時散ず。

正月二十七日 快晴。暖氣如春陽。本島正札、徳満早苗に復書す。保定府師範学校教習大境鴻藏来訪。午後大平、根岸と郊外に散歩す。高橋謙、西田龍太、鈴木淳、海軍軍令部田中中佐の信書到る。夜田岡来談。

正月二十八日 晴。日曜日。午前九時より学友会の茶話会に出席す。正午散ず。中食後上海に至り阿多廣介、小越平陸の帰国を送る。船已に出港して及ぶ能はず。帰途水野幸吉を豊陽館に訪ひ寛談、去て井手友喜を敲き、三時帰る。

正月二十九日 晴。西田龍太、鈴木淳に復書す。北京西田耕一生の信至る。午後渡邊と郊外に散歩す。夜真島来談。

正月三十日 晴。孝明天皇祭。中食後出獵、徐家匯道の南側墓地に於て鳩九羽を獲、六時半帰る。熊本葉室謹純、天津石田京並に藤沼誠一郎の信至る。

正月三十一日 雨。熊本留守宅に発信し、外に西田耕一に復書す。午後早川新次来訪、本日来着せりと云ふ。岳翁、安河内、小田原寅吉、高岡富、宮崎寅、不破昌材、井手三郎、上多津太郎の信至る。

二月一日 雪。井手、岳翁に復書し、並に高岡富弥、田中新太郎に返書を發す。永松嘉吉来訪。

二月二日 半晴、寒氣頗嚴。海軍軍令部に報告を發し、外古莊韜に其母堂の死を弔す。午後松倉親敬、中西磯壽、向坂賀禄等来訪。夜七時郵便局に至り海軍宛の書信を投函す。

二月三日 晴。土曜日。午後高橋と郊外に散歩す。留守宅、岡幸七、小山休左右門、中畑栄、小山田淑助の信至る。夜土曜会を催す。軍令部田中の信至る。

二月四日 晴。午前九時山内崑を東亜公司に訪ひ、去て井手友喜を訪ひ、十一時半大阪商船の埠頭より上船、軍艦対馬の招宴に赴く。主食後種々の余興有り。船上にて南北洋水師提督薩鎮冰に面晤す。午後四時軍艦を辞し、領事館村山正隆の処に至り談じ、晩食後滬報館に至り、去て松倉親敬列を田中旅館に訪ひ、十時帰る。

二月五日 快晴。莊村秀雄、田中耕太郎、根津一に致書す。午後三時より福岡、大平と浦東に猟し無所獲、而帰。晩田岡の招にて鯨を食ふ。

二月六日 晴。是日理髪す。夜森、西野来談。

二月七日 晴。漢口中畑、宝妻、北京中島裁之、北京德興堂に致すの書を作り、松倉親敬に交附す。川本、上妻、外三人来訪。午前滬報館に至り、中食後篠崎、松倉、永瀧を歴訪す。永瀧の処にて橘三郎に遇ふ。昨夕来着せりと云ふ。夜滬報館の招きにて豊陽館に井手、橘、島田と会食し、九時帰る。不破昌材に詩句題解を郵送す。

二月八日 陰。是日安河内、森川等帰来。莊村、牛島貫吾、古田次郎、安原金次、三谷末、柳原又熊、澤村晴夫、藤本親信、箱崎等の信至る。夜安河内来訪。東京白岩龍平に致書す。

二月九日 晴、寒氣頗烈。午前遠山景直来訪。勝木恒喜、立花政樹、海軍軍令部の信至る。海軍よりは二、三、四、三ヶ月分の手当金を送り来る。夜自治制調査委員七名を招き談話す。根岸佶、武藤長蔵来訪。安達、井野、葉室謹純に致書す。

二月十日 雪。海軍へ金子領収証を送り、外に立花に復書す。夜土曜会を催す。熊本留守宅に発信す。福州前田彪の信至る。

二月十一日 雪。午前八時紀元節の式を行ふ。旧本部に於て職員、学生一同 聖影を拝し勅語を奉読す。終はりて大平と袁子莊、姚文藻を歴訪し、正午四馬路一品香に至り中食し、去て李維格（製鉄所総弁）を訪ふ、在らず。二時帰る。

二月十二日 陰。頭痛。李維格の信並に東亜公司の案内状至る。心気不舒の為め六時就寝。

二月十三日 降雪。午後休む。三時李維格を四馬路に訪ひ、去て古閑次郎を豊陽館に敲く。天津税関より此地に転ぜし者也。滬報館に晩食して帰る。留守宅の信二封、中村順之助、亀雄、野満、上田仙太郎、松倉親敬の信至る。

二月十四日 快晴。前田、亀雄に発信す。午前李維格来訪、明日より湖北に帰ると云ふ。松倉善家の信至る。岡幸七より満洲要覧一部を贈り来る。

二月十五日 雨。早川、澤村晴、岡幸七、上田仙、亀雄、松倉善に復書す。根津の信二封並に古莊嘉門、樗木、角田政二、寺崎辰、村山正隆の信至る。出雲弥助なる者、古城貞吉の添書を携へ来り訪ふ。午後領事館に至り東北地方飢餓捐金六拾六円を領事館に納め、永瀧、村山と小談、去て滬報館に至り正金に金子兌換の事を托し、転じて生田少佐を豊陽館に訪ふ。本日来着せる者にして、予の紹介を以て湖南省長沙の武備学堂教頭として赴任する者なり。談話時を移し、去て東亜公司の招宴に新太和に赴く。来客約二百人。支那演劇の催有り。極て盛会なり。九時辞帰。

二月十六日 雨。海軍々令部に第百六十九号、第百七十号報告を發し、別に根津に致書す。生田清範来訪。三時上海に至り生田の処にて晩食し、別を叙して滬報館に至り、十時帰る。生田は本夕出發、湖南に赴く者也。

二月十七日 雨。留守宅、岡幸七郎に発信す。

二月十八日 雨。夜森茂、河本、町野、若杉等来訪。本島正札、澤村幸夫の信至る。

二月十九日 雨。熊本山田珠一に九州日々新聞通信を郵寄す。

二月二十日 雨。海軍軍令部に第百七十一号報告を發す。岡幸七郎、莊村、徳満、本島、佐野、山口誠一、不破の信、並に宅より覆戒余編を送り来る。

二月二十一日 雨。澤村幸、前田彪に発信す。午後四時出て滬報館に至り、六時藤村家に至り香月梅外

の送別会に列す。会する者研究所関係の者のみにて御幡雅文、山内崑、角田隆郎、土井伊八、香月、河野久太郎、高橋正二、秦長之郎、澤本良臣及び余の十人なり。酒酣にして芸妓混入、喧噪甚しきを以て座半にして帰る。

二月二十二日 雨。小濱重吉の信至る。熊本留守宅に発信す。午後種痘を行ふ。

二月二十三日 積陰。白岩龍平、澤村大宇夫婦の信至る。満洲市原源に発信す。午後高橋と西日暉橋に散歩す。

二月二十四日 雪。白岩に復書し、其外務省より余に蒙古行を囑托せんとするを報ぜしを以て余の願はざる所なるを伝へしむ。土曜会を催す。

二月二十五日 雨。軍令部田中耕太郎の信至る。

二月二十六日 雨。四川徳丸、武昌真藤、山田、立花、澤本等に発信す。夜学生一同の開催せる自治制調査報告会に臨む。満洲箱崎志津摩並に立花等の信至る。

二月二十七日 陰。漢口大瀧、林安繁、福州前田、湖南内藤、天津速水、北京西田耕一に発信す。外に白須直、大河平隆則、松倉、石藤豊太、池部正二、堺与三吉等に致書し、二三事項の調査を依頼す。三時散歩す。大平、武藤等来訪。

二月二十八日 半晴。軍令部田中に致書す。渥美松栄、佐々氏の添書を携へ来り訪ふ。那部宗一、莊村秀雄、白岩龍平、上多助二の信至る。

三月一日 半晴、夜に入て微雨。海軍田中耕太郎に致書す。三時滬報館に至り、夜九時帰院す。

三月二日 晴。福州前島より印材を送り来る。

三月三日 晴。中食後ボートの演習を観る。三時半帰る。川野廉、内田友義、青木喬、鍋島伍三郎、牛島正巳、熊本留守宅の信至る。宅より余の身上に関する件を云云し来る。其言惻切真成泣くべし。眠らずして天明に至る。返書を作る。

三月四日 快晴。留守宅に復書す。九時同文書院の「ボート」レースに赴く。学生二百五十人、職員十余名、来賓永瀧領事、海軍大佐太田三次郎以下四十人、午後五時に至る迄数回の競漕を為す。余も亦職員艇の舵を取り第一の勝利を占む。五時終はりて優勝者に賞品を授与し、楽を奏して散会す。夜矢田部半二郎来り、郵船会社へ入社を保証人たらんことを乞ふ。之を諾す。釜山成田定、海軍々令部の信至る。

三月五日 晴。春期運動の慰労として諸学科を休す。

三月六日 晴。留守宅、青木喬、牛島、池部政次、内田友義、鍋島五三郎に復書す。池部鶴彦、山田珠一の添書を携へ来り訪ふ。三時出て永瀧を領事館に訪ひ南京行の事を商量す。是日同文会長青木周蔵、副会長長岡子爵連名にて余に同文会を代表し南京に赴き三江師範学堂の紛擾を処分せんことを依頼し来る。村山、井手友を一訪して帰る。

三月七日 快晴。宮崎澤村大宇夫婦に復書す。宝妻の信至る。夜根岸、上原等来談。

三月八日 晴。海軍軍令部に第百七十二、七十三号報告を発し、別に根岸に致書す。三時高橋と太原墓道に散歩す。蘇州白須直の信至る。

三月九日 陰。白須、樗木に致書す。三時東和洋行に海軍大佐太田三次郎を訪ふ。立花来会。五時井手友と吉田次郎の招邀に虎屋に赴き、九時帰る。故那部武二の嗣子より絹物一反を贈り来る。

三月十日 雨。那部啓一、堀治太郎に復書す。昨夜井手友喜に海軍よりの送金其他三百九十五円を托す。四月帰県の時留守宅に投交せんことを依托す。根津に野満身上の事を交渉す。海軍々令部、莊村秀雄の信至る。熊本県庁香山豊熹、大阪鳥居赫雄の信至る。

三月十一日 陰。日曜日。心気不舒。岡幸七郎、葉室謙の信至る。夜真島、野渦、安河内来談。

三月十二日 晴。根津、香月に発信し、本年入学すべき熊本留学生の事に付き照会する所有り。河添に致書す。午後領事館に至り南京三江師範学堂紛擾事件を商量し、滬報館に至る。古閑次郎来会。晩食

後帰る。

三月十三日 晴，春暖大に動く。三時渡辺，高橋と太原墓道より江干一帯に散歩す。池部政次，同鶴彦，勝木等の信至る。夜真島，野満の重に至り談ず。

三月十四日 快晴，暖気如晩春。廣松良臣，倉又の信至る。高橋正二と日暉橋辺に散策す。

三月十五日 快晴。廣松，大河平，伊集院天津領事，白岩等に致書す。伊集院，大河平に澤村大字，廣松良の事を依頼す。留守宅の信至り，日誌を抄録し来る。直に書を裁して之に答ふ。本島東京の信至る。夜心気不舒，終宵眠を成さず。

三月十六日 晴。福州前田彪，漢口大瀧八郎より曾て依頼する所の調査書を送り来る。永瀧領事より三江師範の事益す救ふ可からざるに至りしを報じ来る。是日吉田学生の帰県に托し那部宅より贈りし反物を国許に托送す。夜西野，川本，若杉，小貫来訪。小貫より其土産甘露梅，乃し梅各一匣を贈る。心の憂有り，甘露亦甘からざるを奈せん。

三月十七日 晴。土曜日。余是夕を以て南京に赴き三江師範の紛擾を処理せんとす。朝来行李を收拾す。心気不舒，事を以て南京行を中止す。永瀧領事の信至る。午後領事館に至り三江の事を商量して帰る。

三月十八日 快晴。森，田岡，根岸等来訪。心気鬱陶不伸。午後勉て郊外に散策す。

三月十九日 陰。熊本留守宅に発信す（二号）。根津一，柏原文に致書，三江師範の近況を報ず。九時領事館に至り三江師範総弁李瑞晴（梅庵）に会す。永瀧領事と商量し，三江師範善後の事を交渉す。滬報館に中食して帰る。三江師範の事大森，柳原，外一名を免職し，余は留任の事を内定し居りしも，内訌の爲め局面再変，遂に全部解雇の事に決せりと云ふ。前田より調査書を送り来る。

三月二十日 雷雨。心気殊に楽まず。湖南内藤より調査書を送り来る。澤村雅夫，中村順之助，亀雄の信至る。亀雄は本月十六日韓国より帰朝の事を報ず。柳原又熊の信至る。本人並に前田，池部，古閑，大瀧に発信す。夜発熱儼汗，終夜不成眠。

三月二十一日 陰。終日臥床。留守宅の信至る。病を勉て返書を作る。根津一，小濱重吉，澤村雅夫，福岡禄太郎の信至る。是日医士来診，始て薬を用ゆ。海軍々令部に支那鉄道図を郵送す。

三月二十二日 晴。留守宅に復書す。内藤熊，三浦喜傳，本島，澤村に復するの書を作る。是日より学期試験を行う。臥床養病。池部，井手三，大河平隆則，樗木耕一，岡幸七等の信至る。

三月二十三日 陰。静臥養病。長沙生田清範の信至る。夜安河内来問。

三月二十四日 陰。宮坂九郎来別。病床。

三月二十五日 陰。渥美松栄，宮坂，大里忠一郎等来訪。是日心気稍佳。正午安河内の処に至り中食す。釜山佐野，佐藤潤象，成田定，東京郡島忠の信至る。佐藤列よりは葉室の起業費に五十円貸与の事を交渉し来る。留守宅に致すの書を作る。安東県，中村順之助に発信す。

三月二十六日 陰。留守宅に発信す。東亜同文会，佐藤潤象，田中耕太郎等に発信す。夜始て入浴。佐野直喜，早川新の信至る。

三月二十七日 陰。心気鬱結。早川に復書し，宮崎澤村大字に致書，履歴を送らしむ。

三月二十八日 微雨。岳翁，内田友義，米田虎雄，松倉親敬，中西磯寿，篠原邦威，西本省三，池田市郎，澤村雅夫，井手三郎等の信至る。

三月二十九日 晴。是日第二学期試験終了。岳父翁，井手列に復書す。西本，郡島に返信を發す。

三月三十日 晴。海軍大佐太田三次郎来訪。武昌山田，真藤の信至る。夜川本，沼来訪。是日試験慰勞を兼土曜会を催す。心気鬱甚。

三月三十一日 晴。海軍々令部に第七十五号報告を發す。午後病を勉て香月の帰国を送る。留守宅の信至る。夜安河内，田岡来訪。松倉善家，山田珠一，伊集院彦吉，白須直の信至る。留守宅に復す。

四月一日 健晴。午後高橋正二郎と郊外に出で太原墓道の辺を一週として帰る。

四月二日 晴。心気不佳。午後安河内、渡辺と汗干射的場の仮山に上り悶を遣る。四時帰る。留守宅に
発信す。是日より一年生を杭州に旅行せしむ。澤村大字、河口介男、堺、速水に致書す。

四月三日 晴。神武天皇祭。午前安河内、高橋と龍華火薬局に至り石藤工学博士を訪ひ、中食後龍華の
開廟を見る。車馬充溢、香客如織。午後四時帰院。木村万作、恒屋盛服、佐野直喜の信至る。夜高橋、
安河内を招き会食す。

四月四日 晴。木村万作に復書す。熊本留守宅の信至る。稍や積憂を排するを得、宿痾身を去るの思有
り。樗木耕一、瀬戸山正男、原口聞一來訪。樗木は政章の長男にて陸軍少佐なり。蘇州に赴任の途次
其の父の書を携へ來訪せる者なり。小川辰五郎の信至る。福岡禄太郎日本より帰來、談話時を移して
去る。夜田岡來訪。留守宅へ返書を作り午前三時に至り寝に就く。

四月五日 陰。小川辰五郎に復書す。澤村晴に寄書す。午後大平賢作と江を遡りて射的場の辺に至り、
四時帰る。

四月六日 晴。是日より授業を始む。留守宅に第九号信を發す。長岡子爵病氣危篤の報有りしを以て其
執事に宛て見舞状を發す。夜來頭痛。午後豊陽館に至り樗木耕一、原口聞一を訪ふ。四時大東に至り
大谷、河野と小談。樗木の蘇州行を送りて帰る。夜福岡、村上、高橋を訪ふ。芝罘堺與三吉、牛莊莊
村秀の信至る。

四月七日 小雨。土曜日。堺に復書す。午後一時大平賢作と江干の假山に上る。雨に遇ふて帰る。桃花
満開、楊柳の林を綴り、風趣如画。今日始て花を觀るの感有り。夜杭州修学旅行より帰りし西野、武
藤、森川等の諸教授來りて帰着を告ぐ。田岡政樹來談。

四月八日 雨。日曜日。是日職員全部の觀桃会を東日暉橋の附近の桃林に催す。午前十時予定の地に赴
き開筵。古閑次郎亦來会。雨漸く大なるを以て一時半帰院。夜町野晋吉來談。

四月九日 陰寒。根津一の信至る。留守宅、岡幸七郎、吉田豊喜、深野達等の信至る。留守宅の信春風
積霜を解くの思有り。中心欣悦、半宵眠まず。澤村大字の信至る。亀雄の信至る、朝鮮より帰京せり
と云ふ。

四月十日 晴。海軍々令部に百七十六、七、両号報告を發す。北京西田耕一、重慶徳丸作藏、漢口林安
繁より報告書を送り來る。同文会より蒙古烏里雅鮮台に在る草政吉の通信を送り來る。天津北洋学務
顧問渡邊龍聖、安慶早川に澤村大字の履歴書を郵寄す。澤村大字、徳丸作藏、澤村晴夫に致書す。夜
長岡護美子爵薨逝の電報至る。

四月十一日 晴。長岡副会長薨逝の為め哀悼の意を表し本日諸学科を休す。午前領事、村山等を訪ひ、
滬報館に中食して帰る。熊本岩橋生の信至る。夜川本新吉來訪。

四月十二日 晴。長岡邸に弔詞を發す。各省の総督並に各領事館に子爵薨去の事を訃電す。西田耕一、
深野達、岩橋、池田市郎に復書す。外に東京根津一に致書す。田添某、山田珠一の添書を携へ來り訪
ふ。午後熊本陸軍少佐津野田是重來訪。

四月十三日 陰。細川護立男に長岡子爵の溘逝を弔するの書を致す。外に佐野、海軍々令部に報告領収
証の件に付き照会する所有り。湖南生田清範、武昌山田勝治、熊本山田珠一に発信す。天津三浦喜
傳、速水一孔、札幌八田三郎の信至る。夜田岡を訪ふ。

四月十四日 雨。午前領事館に至り書院の事を商量し、篠崎に至り書院の經費一時不足の為め金四百円
を借り、滬報館に中食し、山内を訪ふて宮坂より依頼せる商品を四川に送る件並に神津身上の事を商
量し、午後三時田岡の帰国を送り帰る。

四月十五日 陰。樗木耕一の信至る。夜安河内、森、茂木を招き会食す。

四月十六日 陰。土屋員安、狩野直喜並に海軍々令部に百七十八号報告を發す。渋谷繁次の信至る。午
後名尾千里、外一人來訪。

四月十七日 晴。根津一、亀雄、宮坂九郎に発信す。真藤駿士、山田勝治の信至る。名古屋深野達に其

依頼品毛筆九十本を小包にて送る代金二十五円八十銭，外一書を致す。

四月十八日 晴。是日午前十時故長岡護美公の追弔会を行ふ。永瀧領事，其他十余人来て参列す。学生一同，職員全部皆会す。余書院を代表して弔詞を読み，十一時半散ず。三年生七十一名，森舎監引率にて北清修学旅行の途に上る。朝鮮葉室謹純の事業資本の一部として金五十円を釜山佐藤潤象に郵送す。海軍々令部より五，六，七，三ヶ月分の手当三百円を送り来る。廣松良臣，河口介男，緒方二三，小濱重吉の信至る。鑄方徳藏，御幡雅文来訪。鑄方は本日来着せりと云ふ。

四月十九日 陰。海軍々令部に金子領収証を郵寄す。外に真藤，山田，緒方，岡，八田三郎，樗木耕一，辻武雄に致書す。小濱重吉，廣松良臣，渡辺龍聖に致書す。渡辺には廣松の履歴を送る。午前正金銀行に至り金子を兌換す。日本貨三百九十七円余となる。鑄方徳藏を豊陽館に訪ひ，渥美生の事を依托し，滬報館に中食し，午後鑄方に別れ帰る。鑄方本日より武昌に赴くものなり。夜安河内，高橋，渡辺を招き晩食す。澤村大字の信至る。

四月二十日 陰。熊本留守宅に第十号信を發す。佐々友房氏に発信す。

四月二十一日 雨。名護屋豪商近藤友右衛門並に其支配人葛谷春太郎，古池健次郎来訪，蘇杭両地に添書を乞ふ。白須，岸兩人に添書す。大阪岡正樹に致書す。土曜会を催す。

四月二十二日 陰。日曜日。

四月二十三日 晴。海軍々令部に第七十九号報告を發す。土井伊八来訪。三時福岡と近郊に猟し鷄四羽を獲，福岡の処に晩餐す。

四月二十四日 晴。午前領事館に至り永瀧に会し同文滬報の事を商量し，井手の処にて中食し，二時帰る。

四月二十五日 雨。九時滬報館に至り，十二時井手を弘済丸に迎ふ。橘三郎，水野幸吉亦帰来。井手の処に中食し，四時帰る。佐々木利助より海苔一缶，鳥居赫雄より蒼海遺稿一部を送り来る。岡幸七郎，内田友義，西本省三，澤村雅夫の信，並に栗村顯三郎夫婦より新婚披露の案内状至る。

四月二十六日 積陰。北京川島浪速，武昌鑄方徳藏に澤村晴夫の履歴書を郵寄す。内田友義に致書，樗木政章への紹介状を封寄す。佐々木に海苔の礼状を出す。午後一時豊陽館に至り水野幸吉，橘三郎を訪ひ名刺を留め滬報館に至る。橘在り。午後六時栗村の新婚披露に新太和に赴く。阿多夫婦，山内，井手，秦，土井，高橋列数人来会。九時高橋と共に帰る。白岩龍，軍令部，亀雄の信至る。

四月二十七日 陰。留守宅に第十一号信を發す。鳥居，山田珠に致書す。栗村顯来訪。根岸，上原，大石来訪。栗村に新婚の祝儀として每人三円づつを出し，八人にて洋食の器具を贈る。

四月二十八日 晴。土曜日。中川芳三郎に致書。午後横田生を佐々木病院に入院せしむ。一時日暉橋に至り大平，高橋列の釣魚を観る。中川芳三郎，本島，辻の信至る。土曜会を催す。

四月二十九日 晴。日曜日。無事。

四月三十日 雨。午前済々黌教諭進来重松，井芹経平の添書を携へ来り訪ふ。四川の高等学堂に赴任する者。之に徳丸作藏への添書を与ふ。三時滬報館に井手を訪ひ，晩食後帰る。漢口劉姓，胡姓より紅茶各一箱並に錦墨一卷，詩箋四箱を贈り来る。井手友喜の帰国に金子並に西湖藕粉二匣を留守宅に托送す。西山勇来訪。大阪岡正樹の詩信並に湖南生田清範，海軍軍令部の信，及び釜山佐藤潤象より葉室に送りし五十円の領収書至る。熊本留守宅に第十二号信並に清子に端書二葉を郵寄す。

五月初一日 雨。橘，徳丸，桑田等に西山，廣松，澤村，角田の履歴書を送る。田岡，白岩，澤村雅に復書す。夜村上貞吉来談，深更に及で去る。

五月二日 雨。漢口劉惕夫に礼状を發し，郵船会社澤本に致書す。鳥居に致書。近藤友衛門の信至る。

五月三日 晴。学生今井生明後日京都に帰るを以て山楂糕六箱を土屋貝安に送り，二箱づつを高見翁と鳥居とに転贈せんことを托す。土屋，高見両氏に致書す。第一期生若林，佐藤来訪。午後井手，倉又来訪。井手を留て晩食す。澤村晴，西本，三島，廣松，長岡邸家扶の信至る。

五月四日 陰。午前上海に至り佐々木病院，中野医院に学生並に高橋正熊の病気を問ひ，篠崎に至り書院の臨時費不足金暫借の事を商量し，滬報館に至り中食し，井手友喜に別れ帰る。井手本夕上船，帰国するを以てなり。留守宅に十三号信を發す。根津一の信並に田岡正樹の辞表至る。

五月五日 陰。市原源，根津一に發信す。勝木の信至る。午前井手を訪ひ，中食後共に出て姚文藻の病を問ふ。肺炎にて極て重体なり。二時競馬場に至り同文書院学生と米国軍艦シンシナティ号の選手とベースボールの競争を觀，四時滬報館に歸り，晩食後歸る。渡繁三來談。

五月六日 雨。日曜日。沈文藻其子を携へ來り訪ふ。午後南雅雄來訪。夜安河内，高橋等と談ず。武昌鏑方德藏の信至る。

五月七日 晴。渥美，五十嵐，藪内等の信至る。三時高橋と日暉橋太原墓道に散策す。夜安河内，渡邉來談。天津修学旅行の引率者森茂より明日新裕号にて天津發歸滬の電報至る。海軍に第百八十号報告を發す。和田農商務次官に發信，根岸の事を依頼す。

五月八日 晴。南京柳原の信至る。三時放課後渡邉，高橋と太原墓道に散歩す。夜福岡を訪ふ。

五月九日 晴。佐藤潤象，葉室，熊谷直亮，同文会の信至る。葉室より証書を送り来る。是日西本省三來着。夜福岡の招邀に赴く。西本，吉田來訪。

五月十日 晴。頭痛。熊谷直亮に復書す。軍令部，留守宅の信至る。十四号信を作りて之に復す。夜頭痛激甚。

五月十一日 陰。軍令部第百八十一号報告，清子の画端書，三浦喜傳，根津一に致書す。橘三郎，山根虎之助，三浦喜傳の信至る。三浦より天津人形一對を贈り来る。是日午前九時北清へ修学旅行の学生一同歸院す。萩原，入野，佐々木等來訪。

五月十二日 雨。土曜日。生田清範，井原真澄，内藤熊喜，速水一孔，河口介男，軍令部に發信す。土曜会を催す。夜今井邦藏來談。京都土屋貝安の信至る。

五月十三日 陰。頗熱。九時滬報館に井手を訪ひ，晩食後歸る。

五月十四日 陰。午後三時より寓を俱樂部樓上に移す。杭州西山勇の信至る。高橋，安河内來訪。夜安河内の室に談ず。

五月十五日 晴。熱氣如三伏，袷衣を脱し単衣に更ゆ。名護屋深野達より筆代二十五円を送り来る。若林來訪。

五月十六日 雨。深野達に復書し，清子に画葉書を送る。留守宅，井手友，亀雄，井口忠，高田政二，小濱重吉等の信至る。夜安河内來訪。十二時半に至る。熱氣如烘，發汗沾衣。四更大風雨。

五月十七日 陰。留守宅に亀雄，井口に復書す。三時茂木一郎と龍華街道を散歩す。夜三木甚市來訪。冷氣肌を刺す。昨日と二十余度の差有り。

五月十八日 雨。佐藤，若林來訪。清子の信至る。

五月十九日 陰。清子に復書し別に画端書を送る。午前男爵本多政以，同横山隆俊，外二名神戸櫻井一久の添書を携へ來訪。午後二時出て書院学生とセントジョン書院学生とのベースボール競争を觀る。留守宅，根津，岡幸七郎，栗村夫婦，柳原，鳥居赫，中川芳三郎，清子等の信至る。土曜会を催す。夜根岸，高橋，加藤，安河内等來訪。留守宅への復書を作り，午前一時半就寝。

五月二十日 陰。日曜日。午前上海に至り留守宅への信を投函し，豊陽館に本多，横山両男を訪ひ，井手に抵り，若林を伴ひ本人身上の事に付き飯沼直治を訪ひ，滬報館に歸りて中食す。午後郡島忠を豊陽館に訪ひ，一時本願寺に至り学生松島の父の法会に臨み，夜滬報館に井手，島田，西本，外数人と会食し，八時歸る。角田政治の信至る。

五月二十一日 大雨。河口介男，井原に致書し，清子に画端書を送る。

五月二十二日 雨。成田與作に致書す。午後柳原又熊來訪，本日南京より來着せりと云ふ。洋人三名來訪。

五月二十三日 晴。木村竹南に書籍の礼状を發す。留守宅、土屋員安、工藤常三郎の信至る。郡島忠二
郎來訪。森、安河内來訪。

五月二十四日 晴。海軍田中耕太郎、亀雄、尾越辰雄の信至る。

五月二十五日 晴。海軍々令部に第百八十二号報告並に留守宅、田岡に發信す。工藤常三郎に復書す。
午前柳原を豊陽館に訪ひ、去て篠崎を敲き、滬報館に至る。菊池謙二郎、柳原來訪。晩井手、島田と
柳原の招邀に豊陽館に至り、八時帰る。夜森來訪。

五月二十六日 陰、晡に至りて降雨。午前滬報館に至り、正午菊池、柳原の帰国を博愛丸に送り、二時
帰る。学生団の自治制調査委員西田、大石、田中等來訪。夜三木甚吉、岡本、杉本諸生來訪。

五月二十七日 晴。午後帝國軍艦須磨艦長並に赤石艦長より招待有り、二時半須磨に赴く。内外の賓客
百余人、立食の饗有り。終はりて水兵の余興を見、五時滬報館に至り、晩食後帰る。夜安河内來訪。

五月二十八日 晴。西里來訪。

五月二十九日 晴。尾越辰雄に復書す。夜川本、西田、三宮、奈良、有安、川口、安河内、真島列來訪。
留守宅の信至る。通読一過両腋生風の思有り、積憂頓に一掃す。根津の電報至り、來月六日帰院を報
ずるも、帰心矢の如く之を待つに遑あらず。午前京都大学教授中島玉吉、戸田海市來訪。之を留て中
食す。

五月三十日 晴。午前領事館に永瀧、松岡、村山等を訪ひ別を告げ、去て篠崎を訪ひ書院の經費不足七
百円を借り、井手に至り中食し、三時帰る。夜町野、上妻、川本、宗像、有安、川口、奈良、安河内
等來訪。

五月三十一日 晴。長崎迄の往復切符を購ふ、価三十六円。生田清範、飯田等に致書す。津田静一、鳥
居赫雄、今井順等の信至る。行李を整頓す。夜上多、若杉、川本、沼、吉田、根岸、高橋、隈元等來
訪、十一時去る。

六月一日 軍令部に帰国を報ず。午後行李を整頓し之を滬報館に送る。福岡禄太郎に留守中の代理を囑
托す。漢口馬場に致書し隈元生の事を依頼す。晩職員諸子と会食し、六時半別を告げて滬報館に至
る。鑄方、早川に致書す。萩原、野満、両川、町野、上妻、川上、久保村、五十嵐、赤松、清浦、松
本、森、赤谷等來り別る。滬報館にて入浴。十時半春日丸に上る。渡辺繁、高橋正二、根岸佶、吉永、
森川一甫、井手、宮崎、森崎、篠崎、安河内、大谷、藤井、上多、大平、神津、茂木、島田、佐々木、
古閑、阿野久等の知人來り送る。岸倉松、御幡雅文、石原逸太郎、門田等と同船たり。内田友義、橋
本政章、佐々布質直の信至る。

六月二日 晴。午前五時半学友会総代伊東経真、前島等來り送る。六時開船。午後少く船暈の氣味有
り。晩食堂に出でず。

六月三日 夜十一時船長崎に入る。檢疫終はりて内港に進む。夜深の故を以て上陸せず。是日船中刑部
郎中薫康、刑部主事孫秩巖等と談ず。

六月四日 雨。午前七時上陸、税関の検査を受け、車を駆て土佐屋に至る。熊本留守宅に發電す。九時
根津一を緑屋に訪ふ。本朝來着せる者也。三時弘濟丸に至り白岩龍平に面話す。上海に赴く者なり。
四時根津上船、別を叙して帰る。煙雨霏々、四山の新緑翠滴らんと欲す。同文書院事務室に致書す。
高橋正二、鳥居、土屋、山田、井手友、井手三郎に發信す。

六月五日 晴。五時四十分の一番急行車にて熊本に向ふ。鳥栖にて換車。十二時半上熊本駅着。大野謙
と小談、車を駆て家に帰る。津野一雄、河口介男來訪。

六月六日 雨。白石卯一來訪。岳父翁枉顧。柳原又熊、内田友義來訪。

六月七日 雨。夜澤村晴夫來訪。是夕積憂始て解け、心襟洗ふが如し。

六月八日 雨。鳥居の信至る。午後内田友義、清子同伴、上妻、柳原宅を訪ひ、錦山神社に参拝し、通
町にて清子の為に人形を購ひ、帰途津野一雄を訪ふて帰る。

六月九日 雨。午後中村六蔵、津野、吉田、平井、藤本宅を訪ふ。河口来訪。夜大江に至り、十時帰る。

六月十日 陰。西村天四、井手友喜の信至る。上田金城、牧相愛来訪。午後出て武藤虎太、長野一誠、山田珠一、鎮西館、河口、井芹列を訪ふ。根津一、井手三郎、山田珠一に致書す。

六月十一日 晴。高見克、軍令部、近藤友右衛門、西村虎太郎、田岡正樹、本島正札、澤村雅夫、工藤常三郎、大河平隆則、若林兵吉、増田徹、稲田譲、白石卯一の信至る。午前柳原、澤村、永野、町野列を訪ふ。佐々干城氏来訪。町野健吉来訪。夜家族と新屋敷を廻り被分町に至り河口家を訪ひ、十時帰る。安河内、渡辺に発信す。

六月十二日 晴。山田珠一、内藤熊喜、生田清範の信至る。町野玄同、上妻母堂、澤村雅夫来訪。午後家族と江干に散歩す。晚山口誠一を訪ふ、不在。夜上田金城、柳原夫婦来訪。

六月十三日 晴。山田九郎、中村六蔵来訪。晚上田金城の招邀に赴く。八時半帰る。柳原宅に至り、十時帰家。

六月十四日 晴。園田勘吾来訪。同文書院職員並に根岸、大平、森川、森、西本、高橋、茂木等に致書す。午後不破昌材、澤村晴夫来訪。不破を留て晩食を共にす。

六月十五日 晴。園田郭六、牛島貫吾来訪。午前理髪。上野、上田を訪ふ。吉永清一に致書す。五時家族を伴ひ徒歩洗馬開陽亭に至り洋食を喫し、八時半帰る。

六月十六日 雨。松倉親敬、柳原又熊来訪。午後二時家族同伴熊本駅より上車、三角に至り浦島屋に投ず。療病中の山田珠一に晤す。夜浴場にて浅井寅喜に邂逅す。旅館主人大谷高寛来談。

六月十七日 雨。午前家族と浅井の帶道にて雲谷山の観音庵に至る。僧人の主持する所にして近年竣功せし者なり。境内迷邃清雅、別業中の巨擘なり。正午雨を衝て帰る。浅井を招き中食を共にす。午後町長佐藤敬太来訪。山田来談。夜浅井を訪ひ小談、帰る。

六月十八日 雨。中食後浦島屋を辞し際崎車站に至る。零時半の汽車に乗り宇土駅に下車、法華寺に展し住持に面して回向を依頼し、去て城山の塋に謁し、奥村氏に至り晩食の饗を受けて、六時半の汽車にて熊本に帰る。島川毅三郎、白岩、岡幸七、本島、井手、高橋正二、安河内、隈元、川島浪速、早川等の信に接す。留守中堀勝延、池内、上田金等来訪せりと云ふ。

六月十九日 半晴。園田郭六、黒川真理彦、岳翁、河口来過。

六月二十日 雨。午前堀勝延、井手友喜来訪。井手を留て中食す。午後西岡寿一郎来訪。満洲北清地方の友人に紹介名刺を与ふ。

六月二十一日 雨。安河内母堂の信至る。

六月二十二日 陰。安河内母堂に復書す。夜池内源七、澤村晴夫来訪。

六月二十三日 雨。午前本田選来訪。生田清範、岡本源次の信至る。午後柳原宅を訪ふ。晚角田政治来訪。夜河口宅を訪ふ。

六月二十四日 雨。町野晋吉の信至る。午前内人並に河口と朝病院に田畑若松の病を問ふ。岡本源次、安河内に致書す。村松、内田、河口来訪。

六月二十五日 暴雨。根岸佑、安河内、茂木の信至る。

六月二十六日 晴。堀勝延、柳原夫婦、藤森茂一郎、上田茂二郎、澤村晴夫、内田友義来訪。樗木政章、園田勘吾の信至る。是日陰曆端午節たり。

六月二十七日 雨。白石卯来訪。満洲緒方二三、京都土屋員安の信至る。岡幸七郎、緒方二三に発信す。海軍々令部に第百八十三号清国政況報告を発す。

六月二十八日 晴。午前町野晋吉来訪。昨日上海に帰来せりと云ふ。森茂、西本省三の信を携へ来る。大平賢作より香蕉一聯を贈り来る。鳥居赫雄、川口有安等の信至る。河口来訪。

六月二十九日 陰。午後五時阿弥陀寺町公会堂の松平正直氏の歓迎会に臨む。来会者四十余人。九時帰る。津野、松本清司等来訪。

六月三十日 陰。夜藤崎神社に参拝し、大江を訪ひ、十時帰る。

七月一日 暴風雨。長野一誠、山口誠一、長野金、池田一郎、渋谷繁二列前後來訪。井手三郎、有安、川口両生、井手友喜、鑄方徳蔵に致書す。堀勝延来訪。夜櫻井新、中原淳蔵来訪。

七月二日 半晴。午前岡崎唯雄を訪ひ緒方、藤本兩人債務の事を商量し、帰途田畑若松を病院に見舞、長野一誠、上田茂二郎を敲き帰る。根岸佶、緒方二三に致書す。鳥居に復書す。高等工業学校長中原淳蔵より来る五日卒業式の案内状至る。是日朝来数人の婦人客有り。夜町野、上妻来訪。川本静夫の信至る。

七月三日 晴。藤本親信、田中耕太郎の信至る。高道梅雄来訪。午後大野謙次郎を池田に訪ひ、五時半帰る。夜寺崎辰男来訪。

七月四日 雨。廣岡理則、高橋正二の信至る。高橋に復書す。晩食後錦山神社に参拝し、帰途町野、上妻宅を訪ひ、十時帰る。安田義虎来訪。

七月五日 陰。午前八時高等工業学校の卒業式に臨席し、式終はりて茶菓の饗を受け、十時帰る。澤村雅夫来訪。島田数雄来訪。根岸の信至る。

七月六日 晴。午前松本清司来訪。午後安田義虎を訪ふ。夜地藏祭に展す。

七月七日 晴。第四回国庫債券三口償還。午後浅井寅喜来訪。共に出て井芹を訪ふ、在らず。夜地藏祭の市を観る。

七月八日 晴。武藤虎太、河添泰喜、井芹経平来訪。正午去る。安河内の信至る。根津一、安河内弘、渡辺繁三、浅井寅喜に発信す。真島二郎、井手友喜に致書す。

七月九日 半晴。午前上妻来訪。内人と貧兒寮に至り塘林を訪ひ、帰途自治団の花弁園を観、花一束を購て帰る。町野晋吉来訪。田中清司の信至る。之に復す。夜家族を伴ひ武藤虎太を敲き、十時帰る。

七月十日 微雨。午前吉田豊喜来訪。井手三郎、安河内弘の信至る。塘林虎五郎、上妻兄弟、町野晋吉を招き晩食を饗す。小笠原節来訪。

七月十一日 晴。野満四郎、浅井寅喜の信至る。午後柳原夫婦、寺崎辰男来訪。上海根津一の電報至る。夜家族と千体仏の祭に謁つ。若杉、沼両生来訪。

七月十二日 陰。午前若杉、沼、勝木恒喜来訪、一昨日帰来せりと云ふ。勝木香煙二匣を贈る。塘林来訪。若杉、沼両生を留て中食す。岡幸七郎、葉室謙純の信至る。津野一雄来訪。韓国佐野に致書す。

七月十三日 雨。盂蘭盆会を営む。満洲日報記者佐藤龍雄来訪。本島正礼、上野岩太郎、青木喬、山根虎之助、上多津太郎の信至る。

七月十四日 晴。根岸佶、井口忠の信至る。午前病院に至り診療を受く。二時帰る。島田数雄、早川新次来訪せりと云ふ。永原虎雄来訪。夜家族を伴ひ早川新次を訪ひ、九時帰る。

七月十五日 晴。園田勘吾、柳原又熊来訪。町野晋吉の信至る。午後大江に墓参し、晩帰る。

七月十六日 陰。午前銀行に至り預金を為し、晌午帰る。柳原来訪。海軍々令部より八、九、十、三ヶ月分手当金を送り来る。鉄嶺緒方二三の信至る。夜河口を訪ふ。

七月十七日 晴。渡辺繁三、吉田寿三郎の信至る。辛島格、浅井寅喜、河瀬龍雄、内田友義来訪。鉄嶺緒方二三に到書す。是日郵便貯金を為す（通帳記号〇五三六二）。

七月十八日 晴。午前国庫債券二十二枚を郵便局に保管の手数を為す。河瀬龍雄、澤村雅夫を訪ふ。安河内、井手、本島、町野、福島屋に発信す。晩辛島格氏の招邀に春日三浦屋に赴く。六師団参謀長栗田直八郎来会、九時帰る。藤井多七の信至る。是日津野を訪ふ。

七月十九日 晴。朝中村六蔵来訪。高道梅雄、岳翁、河口介男来訪。不破昌材来訪。傍晚早川、澤村来訪。六時内人と澤村、早川等の招邀に静養軒に赴き、十一時帰る。

七月二十日 晴。午前澤村、柳原、生田清範、早川列を訪ふ。不在中堀勝延来訪。午後早川来訪。

七月二十一日 晴。寺崎辰男来訪。午後家族と水前寺に遊び、沙取濱屋に投じ、小舟を賃して画湖に泛

び、晩食後帰る。澤村晴夫来訪。佐竹與の信至る。之に復す。

七月二十二日 晴。午前沼安治、井芹経平、中村六蔵、生田清範、河口介男来訪。午後渋谷繁治来訪。夜中将姫祭に展す。

七月二十三日 晴。午前大畑、沼、山中三郎来訪。葉室侃温、安河内弘の信至る。高橋正二の信至る。之に復す。井芹経平満洲に赴くに付き岡幸七郎、與倉等に紹介状を与ふ。堀勝延来訪。午後近隣を歴訪し、去て井芹、辛島、毛利を訪問して帰る。長崎根津一の電報至る。佐野直喜、田畑若松に復書す。夕刻宮崎澤村夫婦来着。夜安藤某、小笠原昂来訪。

七月二十四日 晴。齊藤久熊、佐々干城、上妻博路来訪。今朝被分町大火、河口を見舞、晌午帰る。島田数雄に致書す。坪井與吉の信至る。澤村大字来別、神戸に赴く。夜佐々木徳母来訪。

七月二十五日 晴。廣岡理則、坪井與吉、大畑純次に発信す。岳父翁、澤村兄弟、河口来訪。阿部野利恭の信至る。海軍に手当領収証、亀雄に復書す。上妻博路来訪。

七月二十六日 晴。大畑、河口来訪。

七月二十七日 晴。島田数雄、柳原、浅井、安東、辛島格、岳翁、内田友義諸氏来訪。午前澤村、柳原、上妻、武藤、津野、上野列を歴訪し別を叙す。牛島貫吾来訪。午後山田珠一、上妻博之、川本静夫、沼直治、上妻博路、津野一雄来訪。夜上野寅彦、武藤虎太夫婦、中村六蔵、澤村雅夫、上田茂次郎、上田正喜、角田政治、園田勘吾、澤村晴夫、佐々木徳母列来訪。本島、廣岡の信至る。夜佐々干城氏、人を遣はし送別す。

七月二十八日 晴。朝平井、光永、渋谷、落合為誠来り別る。午前十時妻子を伴ひ車を駆りて上熊本駅に至り十時四十六分の長崎行汽車に乗ず。河口介男、園田勘吾、澤村兄弟、佐々木徳母、島田数雄、堀勝延、大畑太郎、長野金十郎、遠藤良夫、上妻博路、川本静夫、沼直治、松本清、安東某、池田一郎、寺崎辰雄、柳原夫婦、大野謙、武藤夫人、藤村嬢、齋藤夫人来りて行を送る。大野と高瀬駅迄同車す。八時長崎着。町野晋吉来り迎へ、行李其他の周旋を為す。外浦町福島屋本店に投宿す。郭鐘韶、町野来訪。

七月二十九日 晴。午前大浦居留一帯を遊覧す。午前一時大埠頭より瓊浦游泳協会の船に乗り鼠島に至り游泳を観る。来会する者男女約一千余人。控訴院判事池田正誠之を主持し、町野、内海香洲、鈴木行雄、八田某等の同県人之が師範たり。午後八時帰る。町野を招き晩食を共にす。夜佐竹與、安河内母堂、同夫人と共に来着。土誼を贈らる。

七月三十日 晴。東洋日ノ出新聞社馬場進美、大阪毎日新聞社員宮田文作、西山教充、郭鐘韶等来訪。晌午家族と諏方公園に遊び神社に謁して帰る。夜町野晋吉の招邀に赴く。控訴院判事池田同席たり。十時帰る。

七月三十一日 雨意。午前町野、八田、小山田叔助列来訪。午後二時半福島屋を出づ。県庁前の坂路にて内人草より落ち傘を破り足指を傷く。三時郵船会社の小蒸気船にて春日丸に乗り上等室を占む。吉田順蔵、小山田叔助、祖山鍾三、農務学堂総弁李大年等同船たり。五時開船。池田正誠の鼠島游泳場より帰るに邂逅し、船上互に帽を振りて別る。鼠島附近を通過する時、町野晋吉、游泳会員を率ひ小舟に乗り国旗を立て海中に投じ、游泳して我行を送る。是夕海波平穩。

八月一日 雨。海上。

八月二日 大雨。午前七時呉淞口外に達し検疫を受け、十一時半上海に達す。井手兄弟、安河内、藤井、篠崎、学友会総代前島外一人、古瀬、佐々木、高岸、上原夫人、西原等来迎。大雨を冒し馬車にて同文書院に入る。西本、赤谷、茂木、西野、福岡、上原等来問。夜赤松、安河内等来訪。守田原、佐々木利助、森茂、白山勇次郎、齋藤國男、進来重松、宮坂九郎、米田虎雄、工藤常三郎、若杉要等の信至る。

八月三日 微雨。事務を視る。海軍々令部に八、九、十、三ヶ月分手当領収証を發し、外に田中中佐に

致書す。藤本親信の信至る。原功、井手兄弟、佐藤恒三、加藤要三郎、吉永清一、野満四郎等来訪。夜入野五十里、藤井太七、古瀬、西本、茂木来訪。

八月四日 晴。午前九時半馬車を賃し家族を伴ひ上海に至り、徳富猪一郎、山内崑列の帰国を春日丸に送り、井手宅にて中食の饗を受け、篠崎、吉永、姚文藻等を歴訪し、張園に遊び、四時帰る。安河内、西本、茂木、赤谷等来訪。是夜月蝕皆 たり。藤井、上原を訪ふ。

八月五日 晴。日曜日。熱気如烘。午前原功、外卒業生一名来訪。晌午井手友喜夫婦来訪。安河内夫婦を招き中食を共にす。神津助太郎来訪。晩食後安河内夫婦と同伴家族と製造局の江畔に散歩す。是夜望後一日月色如水。九時帰る。山内崑の信至る。

八月六日 晴。

八月七日 晴。亀雄、大畑純次、宮原、井芹、白岩、徳田、白山勇次郎、竹崎、上多津太郎、藤本親信等の信至る。夜篠崎来訪、晩食後分る。根津、町野に致書す。

八月八日 陰。鑄方、白山、竹崎、上多に致書す。留守宅、上田、澤村幸夫、熊本日本銀行代理店の信至る。上田より貯金保管証の到着を報じ、日本銀行代理店より国庫債券到達に付き領収を求め来る。日本銀行代理店に九月中旬迄保管方請求の信を發す。立秋。

八月九日 晴。福岡来訪。午前領事館に至り永瀧、松岡、村山等を訪ひ、去て井手、大谷、河野、村上等を列訪して帰る。茂木一郎、砂田実、馬場、米市、安河内等来訪。晩食後家族と郊外に散歩す。

八月十日 晴。根津、鑄方、角田政次、大畑太郎、上田正喜に発信す。原功を招き、隅田艦長より依頼の通訳として軍艦に乗込み江西に赴くことを命ず。京都商業学校教諭河地大輔、藤井、川畑豊治等来訪、軍令部田中耕太郎、武昌李泉溪の信至る。清浦奎吾氏に致書す。西本来訪。

八月十一日 晴。午後馬車を賃し家族を伴ひ村上貞吉の招邀に赴く。七時公園を一巡し四馬路を通過して帰る。上田正喜、佐々木徳母、森茂、西山教充、橘三郎、清藤秋子の信至る。

八月十二日 晴。佐々木、富田並に卒業生某来訪。午前沈文藻来談。

八月十三日 晴。岳翁、江原邦彦の信至る。

八月十四日 晴。西野忠吉来別。本日書院を辞し帰国する者也。岳翁に致書す。

八月十五日 晴。商業学校生大原善四郎来訪。夜上原医師の招邀に家族と共に赴く。

八月十六日 晴。午前生田清範来訪、昨日来着せりと云ふ。上車上海に至り篠崎、生田、井手等を訪ひ、篠崎より書院の経費不足五百円を借り、篠崎の処にて中食し、帰途大東公司を訪ひ帰る。満洲三島真吾、金澤、本多政次、横山章、東京根津一の信至る。午後大風雨、炎氣の為に一洗す。夜西川、安河内、西本等来談。

八月十七日 晴。根津一、上田正喜に発信す。宇土奥村傳氏に叔母並に宗方実光の石碑代其他二十円を郵便為替にて送る。西山勉来訪。三浦義傳、三原経治の信至る。齋藤久熊に発信す。

八月十八日 晴。

八月十九日 日曜。午前晴、夜に入て雨。鷹見五郎、山西武二郎、桑野禎三、藤井、安河内、福岡等前後來訪。江原邦彦の信至る。

八月二十日 晴。榎元半重来訪。梶田朴、内田友義、田中耕太郎、上田正喜、大畑太郎、河口介男、井芹経平等の信至る。夜藤井、赤谷来訪。

八月二十一日 晴。御幡の子息来訪。鑄方徳藏の信至る。夜土曜会を催す。午後茂木、安河内来訪。

八月二十二日 晴。午前領事館に至り村山を訪ひ、去て井手を敲き、中食後帰る。内田友義に致書、渡清を促す。

八月二十三日 陰。午前勝木恒喜、真藤駿士、山田勝治、山川速水等来訪。共に昨日来着、武昌に帰任する者也。午後馬車を賃し家族を伴ひ勝木を豊陽館に訪ふ。井手、河野、吉田順藏、中野熊等在焉。晩食の饗を受け勝木に別を告げ、帰途井手の寓に小談、九時帰院。米原繁藏、井芹経平大連よりの信、

並に本島正札の書到る。

八月二十四日 陰。軍令部田中耕太郎，蘇州白須直に致書す。夜赤谷，加藤要來訪。

八月二十五日 晴。杭州高洲太助，奉天白山勇に致書す。三原經治，上田正喜，上多津太の信至る。午後大東に至り大谷，河野を訪ひ，蘇杭遊の事を商量し，去て篠崎，井手等を訪ひ，五時帰る。三原に復書す。

八月二十六日 晴。是日家族を伴ひ蘇州に遊ばんとす。朝來行李を收拾して之を大東公司に送り，午前書院の諸人に別を告げ，中食後馬車を賃し愚園に至り庭内を遊覧し，転じて居留地公園に遊び，四時大東汽船会社に抵る。赤谷由助，西本省三，井手友喜夫婦，大谷藤次郎，藤井太七，古瀬等來り送る。六時半開船。月色太佳。是行大東会社我行の為に特に一船を備ふ。故を以て起臥極て寛綽たり。

八月二十七日 晴。午前七時船蘇州呉門橋に達す。領事白須直，人を派して迎接。大東に小談，去て領事館に投ず。白須夫婦諸事を為に周旋す。十時妻子を伴ひ轎に乘じ留園に遊び小休茶点を吃し，西園寺に至り烏龜を觀る。大なる者箕の如く，小なるもの盆の如し。之に鰻頭を投ずれば争ふて之を食す。転じ寒山寺を觀，去て虎邱に至り寺内に小坐茶を啜り，五時領事館に帰る。夜白須，余等の為に宴を設け，同県人丈夫夫婦並に高田某を招き饗す。九時半散ず。雨。

八月二十八日 晴。領事館にて中食を了り，午後一時船に上る。白須夫婦，高田等來り送る。宝帶橋側を過ぎ運河に入り呉江県を経て，五時平望を過ぐ。人煙稠密，河湖相属す。停船小時にして発す。七時震沢を過ぐ。運河市中を貫流し，船其間を通ず。煙戸頗る殷盛なり。八時南潯を経過す。街衢運河を挟み汽船其中間を行く。市廛甚盛。十一時過湖州。

八月二十九日 微雨。運河の兩岸枇杷桑樹鬱蒼相連る。七時拱宸橋に達し大東支店に入り小談。杭州領事高洲太助，人を派して我行を迎ふ。直に轎を雇ふて発し，十時杭州城外宝叔塔下の領事館に達す。晚食前領事の東道にて画舫を賃し三潭印月に遊ぶ。退省庵に至り彭玉麟の祠に展す。祠中画像を掲ぐ。眉月秀麗清瘦如神。茶を飲み藕粉を吃し，荷花数朶を購て帰る。風大にして船揺き清子頗る苦む。上多助二來訪。

八月三十日 雨。朝食後石井金吾の案内にて領事館を出て徒歩断桥を渡り白堤を漫步し，平湖秋月を経て鼓山に入り放鶴亭を觀，林和靖の墓に展す。古色蒼然，遺愛の梅樹墓を繞りて掩生す。墓面に宋林處士墓の五字を刻し，其側宋處士林和靖先生墓の九大字を題す。去て馮小青の墓を觀，兪樓に至り石刻の梅花五枚並に藕粉を購ひ，文瀾閣に至る。乾隆帝の行宮なり。四庫全書其他の珍籍を蔵す。書籍美麗金字を以て書名を題す。閣の上下三層皆書箱を以て充たさる。去て岳飛廟に展し，出て武穆父子の境を拝す。煙雨冥濛，湖山を罩め感懷状す可からず。終に画舫を賃し西冷橋下を過ぎ，蘇小小の墳を觀，張公祠下に達す。是日湖上の雨景殊に妙絶，晴好雨奇の称真に人を欺かざるなり。領事館に帰り中食す。石原警部在焉。上多來訪，蜜棗一簍を贈る。大東支店の近藤弘造，人を遣はし余に土曜日に出發せんことを勧む。

八月三十一日 晴。午前領事の案内にて家族と轎に乘じ玉泉の清澗寺に遊び鯉魚を觀る。一泓の清泉大小の鯉魚群を成す。大なるもの三尺許，其数極て夥し。之に鰻頭を投ずれば噉嚼として集り澆刺として躍り水上鯉魚の堆を為す。乾隆帝清澗寺觀魚詩数首を刻す。帰途棲霞の紫雲洞に遊ぶ。山中法雲禪寺有り。樹木鬱然，山廻り路転じ仙寰に入るの思有り。寺側洞穴有り，甚大。試に其中に入れば冷氣人を襲ひ復た暑熱の人間に在るを知らず。十一時領事館に帰る。正午領事，余等の為に特に宴を設け，近藤，渡辺，岡田の三夫婦並に石原警部を招く。三時領事の東道にて諸氏と共に船を同ふして三潭印月，高莊，劉莊に遊び，夕陽領事館に帰る。高莊は高爾伊子衡の別墅にして，劉莊は劉学詢の別業なり。此兩人，余の旧知なれども今皆此地に在らず。劉莊は近來の新築にして規模壮大，雅潔華麗，湖山第一と称す。夜西山勇來着，本日日本より帰來せる者なり。是夜陰曆七月十二日たり。八時高洲，西山並に家族と扁舟に棹し平湖秋月に遊び月を觀る。是夜碧空如洗，月色殊に清く，環湖の山

来鳳、宝叔の高塔、路橋西冷の諸橋、皆湖上に倒影し、風趣名状す可からず。少焉淡靄呉山の一角に起りて山腰を没し塔影を罩め、陰晴明滅最も奇観を呈す。十一時帰る。

九月一日 晴。拱宸橋在留の岡田亀麿、近藤弘造、石原初太郎、渡辺彌太郎等より中食の案内有り。十一時西山、石井等に分れ領事と共に館を出で松木場に至り、小舟を賃し一時拱宸橋に達し大東支店に入る。支那料理の饗有り。雷雨大に至る。五時辞して船に上る。高洲領事、上多、近藤、石原、岡田、渡辺並に其婦人等来り送る。五時開船、七時半塘西を過ぐ。

九月二日 雨。午後三時半船上海に達す。大東に小休。馬車を賃して書院に帰る。安河内、福岡、西本、茂木、高筒信重、赤谷、藤井、佐々木等来訪。蘇州白須に致書。尾越辰雄、内田友義、西川、上妻、辻、真島、高橋正二、澤村雅夫、田岡正樹、海軍、角田政治、永尾龍造、若杉要、狩野直喜、根津一、江原邦彦、原功等の信書に接す。

九月三日 晴。杭州高洲に礼状を發す。東京愛住院住職阿刀宥乘来訪、西安府に赴く者なり。之に漢口中畑栄への添書を与ふ。武藤長蔵、松本亀太郎の信至る。夜安河内、西本来訪。

九月四日 晴。早川新次来訪。昨日着せりと云ふ。蘇州辻武雄、高田某に致書す。土井伊八来訪。大平賢作、岡幸七郎、勝木、江原、若杉等の信至る。

九月五日 雨。白須、津田季廣、上多、渡辺弥太郎、近藤弘造、岡田亀麿、石原初太郎、石井金吾、西山勇等に致書す。是夕書院職員一同並に村上夫婦、佐々木、藤井、古瀬等十余人を招饗す。尾越、佐々木徳母、大平、高橋正二、三浦喜傳、狩野直喜、勝木等に復書す。是日内田友義来着。

九月六日 雨。午前豊陽館に早川新次を訪ひ別を叙し、去て井手を訪ひ、中食後大東に大石、河野列を敲き帰る。熊本堀勝延、東京守田愿に致書す。清浦奎吾、末原繁蔵の信至る。夜赤谷、茂木、藤井、古瀬、上原来訪。

九月七日 晴。熊本澤村雅夫に復書す。梶田朴、生田清範の信至る。田岡正樹、同幸七郎、阿部野に復書す。齋藤國男に復書す。

九月八日 雨。午前井手兄弟来訪。午後安河内来談。北京青木宣純より沖禎介、横山列殉難諸子の建碑の事を交渉し来る。夜上妻、内田来談。

九月九日 雨。郵船会社よりアトホームの案内至る、赴かず。夜茂木、内田来訪。

九月十日 大雨。是日書院新入学生来着の期たり。午前馬車を駆り郵船埠頭に至る。海上風波の為め着船の時刻明かならず。十一時帰る。高洲太助、石井金吾、高橋正二の信至る。

九月十一日 晴。朝馬車を賃し山口丸に至り根津一行を迎へ、十時帰る。新学生九十二名、根津、森の引率にて来着。熊谷直幹、津田静一の書を携へ渡来す。根津の処に晩食す。西本、安河内来談。

九月十二日 晴。生田、梶田朴、上田正喜、土佐屋に致書す。午前大東に至り大谷、河野列を訪ひ、去て領事館に至り、郵船会社にて船切符を購ひ滬報館に至る。約して白岩龍平に会し、晌午帰る。正金銀行に至り三百七十三円の為替を取組む。午後四時職員會議に列す。六時根津招宴。井手亦来会。夜町野、佐々木、熊谷、森茂来談。

九月十三日 朝微雨。午前家族同伴馬車にて龍華寺に遊び、十時半帰る。根津来訪。午後馬車にて上海に至り物品を購ひ、晩井手の招邀に豊陽館に赴き、九時半帰る。

九月十四日 晴。明日の春日丸にて帰国の事に決せしを以て朝来帰装を治す。御幡雅文、軍令部に書信を發す。川畑良、西本、外諸人来訪。午後職員を歴訪し別を叙す。夜職員全体の送別宴に招かる。藤井に托し荷物を春日丸に送る。根岸、安河内、熊谷、内田、町野、上妻、渡辺、上原、野満、松本、赤松、外熊本新来生四名並に川口市之助、有安一雄来訪。森川、茂木、福岡来別。海軍田中に致すの書を作り、十二時就寝。

九月十五日 晴。是日帰程に上らんとす。早起行装を治す。根岸、茂木来別。七時諸子に別れ馬車を駆り郵船埠頭に至り春日丸に上る。根津、井手兄弟、篠崎、川上、大谷、澤本、海老子、川畑、宮崎莠、

森崎、学友会総代町野、川口及び福岡、安河内、吉田順蔵、吉永等来送。九時開船。海波平穩。

九月十六日 晴。海上。夜十時長崎鼠島検疫所前に達し検疫を受く。

九月十七日 雨。午前七時春日丸を辞し上陸。税関の検査を受け、八時半土佐屋に投ず。熊本留守宅に電報す。午後浜ノ町町田勸工場に至り物品を購ふ。途上真島二郎、武藤長蔵に邂逅す。本日の弘済丸にて帰院する者なり。夜西山教充来訪。

九月十八日 晴。朝井島義雄来訪。九時五十分の汽車にて熊本に帰らんとす。車站にて山口武洪に邂逅す。午後七時四十分上熊本駅に達し家に帰る。

九月十九日 晴。午前柳原、島田数、葉室謙純来訪。午後永野金、津野来問。夜上妻博之来訪。

九月二十日 健晴。川本静夫、河口介男来訪。晚大江を訪ふ。

九月二十一日 雨。朝豊田虎之進を訪ひ篠崎より依嘱の件を伝へ、帰途武藤、津野を一訪して帰る。郡島、篠崎、松倉に致書す。夜川口家を訪ふ。

九月二十二日 雨。朝高田十郎来訪。肥後銀行に至り正金銀行の為替金受取方を依頼し、帰途坪井郵便局に清子の名義にて国債利札二十五円を貯金とす（通帳記号〇五四九一）。済々黷出身戦死者の建碑寄附として井手と兩人にて金五円を出す。松村亀源来訪。金桁炭酸泉一打を贈る。午後柳原又熊、江副老人来訪。岡幸七郎の信至る。同文書院川上又治より新居長太郎死去の事を報じ来る。

九月二十三日 晴。午前澤村雅夫来訪。午後柳原又熊を訪ひ、五時帰る。

九月二十四日 晴。秋季皇霊祭。海軍田中、上海根津、井手、同文書院職員一同に致書す。

九月二十五日 晴。守田愿、佐野直喜、榎元半重の信至る。午前岳父翁、河口来訪。四時大江に至り鶺鴒の泊りを打ち纔に二羽を獲、晚餐の饗を受け、七時帰る。夜堀勝延来訪。

九月二十六日 晴。海軍々令部に報告を發す。米原繁蔵、原功の信至る。天草田中清司来訪。午後柳原夫婦来訪。夜津野来談。

九月二十七日 健晴。朝毛利篤来訪。夜角田教作来訪。共著大日本地理集成一部を贈る。

九月二十八日 半晴。是日より藤崎神社祭典を行ふ。午前肥後銀行に至り正金よりの為替三百七十三円四十六銭を受取り、帰途山田珠一を九日社に訪ひ小談、帰る。

九月二十九日 晴。朝津野一雄来り佐々友房氏東京にて病死の事を伝ふ。九州日々新聞を看れば果して然り、昨二十八日午後九時富士見町の宅にて長逝せりと云ふ。哀悼何ぞ堪ん。朝食後佐々信一に宛て弔電を發し、鎮西館に至り、十一時帰る。澤村雅夫、佐々木徳母、宇野貞房、秋山儀太郎等来訪せりと云ふ。午後齋藤久熊、同國男を訪ひ寛談、時を移して帰る。夜藤崎宮に展す。

九月三十日 晴。柳原来訪。藤井、内田友義、亀雄に致書す。亀雄は三十七八年戦役の功に依り金鶴勲章を賜はりたりと云ふ。因て書を寄て之を賀す。午後女兒を携へ津野宅に至り楼上より賽馬を観る。土屋員安の信至る。島田数雄の信至る。夜藤崎宮に参拝す。

十月一日 晴。午後大野謙二郎来訪。米田虎雄氏の信至る。

十月二日 大雨。是日藤崎宮の神幸有り。未明雨を冒て行を拝す。午後柳原夫婦を招き饗す。

十月三日 晴。根津一、米原繁蔵、川野廉に致書し、外に佐々信一に其嚴君の長逝を弔し奠儀五円を贈る。郡島忠二郎の信至る。因て之を川本静夫に転致す。

十月四日 晴。正午津野、永原等と鎮西館に至り佐々友房氏の葬儀遥拝式に列す。一時式を始めて三時終はる。夜野田高顯来訪。

十月五日 晴。坪井郵便局に至り清子の名義にて国庫債券波号一千円券一枚並に□号勸業債券二十円券十九枚合計一千三百八十円の保管手続を為す。柳原又熊、津野一雄来訪。

十月六日 晴。川野廉、葉室謙純の信至る。池部秀二、河口介男来訪。夜大江を訪ふ。

十月七日 晴。米原繁蔵、川野廉に致書す。藤本親信、武藤虎太来訪。藤本より土耳其煙草二缶を贈る。夜上妻来訪。

十月八日 陰。岳翁来訪せらる。午前柳原来問。渡辺繁三，安河内弘，葉室謀純に致書す。根津一，渡辺繁三，樗木政章，井手三郎，小貫久等の信至る。

十月九日 晴。夜齊藤國男来訪。

十月十日 晴。白岩，井手に致書す。池部秀を訪ふ。

十月十一日 晴。午後大野謙次郎を訪ふ，在らず。帰途柳原を敲き帰る。藤森茂一郎に致書す。池部秀二来訪。河口来訪。

十月十二日 晴。内田友義の信至る。之に復し，別に渡辺に致書す。是日千反畑の住宅を江副氏に千二百五十円にて売与の事に決す。夜不破昌材来訪。

十月十三日 夜白岩，角田，藤森来訪。藤森金二百円を預く。角田は其著熊本市飽託郡誌を携へ来り贈る。夜大江の招邀に赴く。

十月十四日 晴。午前鎮西館に至り，帰途山田珠一を訪ふ，在らず。米原，廣岡理則の信至る。

十月十五日 晴。午前藤本親信，柳原又熊，山田珠一來訪。浅井寅喜の信至る。高橋正二，井手三郎の信至る。

十月十六日 陰。午前澤村雅夫を訪ふ。河口介男来訪。午後川本静夫来訪。上海安河弘の信至る。二時齊藤國男を訪ふ。

十月十七日 晴。午前清子を伴ひ長崎書林に至る。途上田代呉服店横丁にて清子軍馬の為に衝き倒され馬蹄身体の前後を踏む二三回，而して軀に微傷分も受けず，天幸と謂ふべきなり。夜神を祭り祝杯を挙ぐ。井場熊喜氏来訪。

十月十八日 晴。

十月十九日 晴。午前柳原を訪ひ，去て早川宅を敲き，一時帰る。柳原来訪，明日より上京すと云ふ。松本清司来訪。

十月二十日 陰。午前佐々正之を大江井田宅を訪ふ，在らず。鎮西館に至り安達謙造等に会し，十二時帰る。夜清子を伴ひ大江に至り晚餐の饗を受け，出水神社の煙花を観る。九時帰る。

十月二十一日 雨。本島の信至る。正午佐々正之来訪，本日より韓国に赴くと云ふ。午後佐々干城氏を井田宅を訪ひ，帰途井芹経平を敲き，四時帰る。豊田虎之進来訪。廣岡理則，高橋正二に発信す。

十月二十二日 雨。午後五時出て津田静一氏を宝来屋を訪ふ，在らず。六時山田珠一の招邀に静養軒に赴く。同座は辛島，吉永，安達，谷口，藤野，井芹，大畑純及び余の八人なり。九時半散ず。

十月二十三日 半晴。午前河口来訪。晩井芹，齊藤久，石原醜男来訪。

十月二十四日 風雨強烈。奥村傳氏来訪。川本，松本の信至る。石原醜男其先人三十年祭に余の詩を需む。因て七古一篇を作りて之に贈る。蓋し石原氏明治九年敬神堂の変に自尽せし者なり。

星光落地万籟沈，一軍兵氣曷嚴森，咄嗟直欲屠重砦，血盟結成鉄石心，数奇戰敗雖可惜，士論至今称心赤，成敗本無関達人，形跡何又問順逆，聞説百鍊宝刀朝日丸（石原所佩之劍名），光鋌如霜逼人寒，斬馘敵首盤舞去，従容就死見肺肝，物変星移三十歳，恩讐迹消墓木翳，維時十月祭公靈，英魂或能降天際。

午後江副老人を訪ひ家屋登記の事を商量し，去て齊藤兄弟を訪ひ，帰途上野を一訪して帰る。夜河口介男を新聞社を訪ふ。

十月二十五日 晴。午後本田選，佐々干城氏来訪。

十月二十六日 晴。朝来家具の一部を大江に送り桜樹を移植す。川本，角田，緒方二三の信至る。町野晋吉の信至る。

十月二十七日 晴。午岡島，林辰喜代，不破昌材，武藤虎太，松本清司，河口等来訪。松本の上海行に托し獵銃を托送す。江副老人来り，家屋代金の残部一千百五十円を交附す。是日家屋売却登記の手続を山本晴夫に依托す。夜津野，上野来訪。

十月二十八日 晴。朝来家具を收拾す。河口来り助く。池内源七来訪。
十月二十九日 晴。家具を大江に送る。是日家屋売却の登記成る。
十月三十日 雨。親戚を招き留別し、隣里の数家に鯛を贈る。津野一雄来訪。
十月三十一日 晴。家具を大江と河口に送る。松倉善家、米原繁蔵の信至る。碩台校長大石に面し清子
本日限りにて退学の届を為す。上海井手、同文書院、町野、上妻列に致書す。夜神仏並に位牌を捧じ
て大江に至る。上妻を訪ひ別を叙す。隣里の数家に至り別を叙す。
十一月一日 晴。大石永勝、津野一雄、吉田善門、福島等来り別る。亀雄の信至る。午前家具を送り尽
し、午後一時家屋を江副氏に引渡し、一時半家族と家を辞す。ト居十年の居宅一朝永訣、一径の松菊
眷恋の情に堪へず。家を辞するの前中村六蔵並に赤塚に別を叙し、藤崎宮に参拝して帰る。二時三年
坂の白水館に投宿す。
十一月二日 雨。午前大江に至り、転じて肥後銀行に赴き預金を為し、帰りて安達を鎮西館に訪ふ。午
後齋藤久熊、小笠原昂来訪。晩安達、山田の招邀に静養軒に赴く。席半にして田畑若松死去の電報に
接し辞帰。
十一月三日 晴。天長節。十一時河口と松橋塩浜に至り田畑の葬式に臨み、六時湊山を越て停車場に至
り茶亭に小休。七時六分の汽車にて帰る。山口誠一來訪せりと云ふ。
十一月四日 晴。土屋、米原等に発信す。午前大江に至り中食の饗を受け、五時辞帰。夜内藤儀十郎氏
を訪ふ。
十一月五日 晴。是日家族を伴ひ東上の途に就かんとす。朝来行李を收拾す。午後三時半白水館を出で
池田駅に至り四時二二分の汽車に乗ず。九時門司着直に馬関に渡り、十一時山陽急行列車に上る。野
間五蔵同車たり。
十一月六日 晴。午後五時半神戸着。六時半の汽車に換坐し、八時京都に達し縄手三条の小川に投宿
す。土屋来り待ちしも過刻辞去せりと云ふ。
十一月七日 晴。午前家族を伴ひ大極殿に至り、転じて小供博覧会並に動物園を巡覧し、四時帰る。晩
土屋の招邀に東三本木の寓所に赴く。九時辞帰。
十一月八日 晴。朝家族同伴徒歩祇園、智恩院を巡覧し、清水寺に至り旗亭に投じ中食し、音羽滝並に
寺内を徜徉し車を賃して帰る。夜土屋来訪。是日三時過より京極に至り物品数点を購ふて帰る。
十一月九日 陰。午前家族と車を駆りて柴野大徳寺に至り高見克翁を高桐院の自在庵に訪ひ閑談。正午
に至り辞出、転じて金閣寺を觀る。足利三代將軍の経営する所、園林泉石の幽雅清美從來見ざる所、
導者に就き古書画古器物を縦覧し、園内を巡視し、茶菓の饗を受けて、去て北野天満宮に謁し、門外の
旗亭に中食し、二時半帰途に就き土屋を三本木に訪ふ。待つ之を久ふして帰来、遂に晩餐の饗を受
け、九時鴨涯を漫步して帰る。
十一月十日 陰。午前在寓。午後京極に至る。余独り早く帰る。米原、鳥居、福屋に致書す。
十一月十一日 晴。早起結束、七時半七条停車場に至る。八時三分の汽車に乗ず。土屋員安後れて来り
乗車す。一室我一行の外只だ一人有るのみ。大垣にて中食し、午後二時名護屋着。土屋此より下車
す。五時半浜松に着し大米屋に投宿す。晩食後市中を散歩す。
十一月十二日 雨。午前八時半大米屋を出で新橋行の汽車に来ず。午後五時十二分新橋着。福屋主人木
村清来り迎ふ。直に乗車、日本橋西河岸福屋に投ず。
十一月十三日 微雨。午前海軍軍令部に至り用事を談じ、晌午溜池の同文会本部に至り根津一、恒屋盛
服、成田與作等に面し、午後二時帰る。土屋の信至る。
十一月十四日 微雨。午後清子を伴ひ上野公園に遊び動物園を觀て帰る。夜柳原又熊、白岩龍平、澤村
晴夫、亀雄等来訪。亀雄留宿す。夜岡本源次来訪、今夜より熊本に赴き護全公子銅像除幕式に列すと
云ふ。

十一月十五日 微雨。午前妻子を伴ひ上野公園に遊び動物園、美術展覧会を觀、国内を徜徉し、不忍池弁天祠畔の岡田屋に投じ中食し、浅草觀音に展し公園内を遊覽して歸る。本島來訪せしと云ふ。

十一月十六日 雨。午前黒瀬、竹下両子來訪。之を誘て牛肉店に至り中食す。午後古城貞吉來訪、晩に至りて去る。夜十二時土屋員安來着。床を出て談ず。

十一月十七日 雨意。午前澤村晴夫を東道とし家族を伴ひ佐々友房氏の遺族を牛込下宮比町に訪ひ克堂氏を弔し其神位を拝し、辭して団子坂に至り菊人形を觀、中食後上野に出で三時歸る。夜本島正札、緒方二三來訪。

十一月十八日 雨意。柳原又熊、龜雄來訪。下午家族を伴ひ土屋、龜雄と電車に乗り高輪泉岳寺に至り義士の墓に展し、義士の遺物を觀、去て芝増上寺に至り公園を散歩し、愛宕山に上りて小休止、歩して日比谷に至り電車より歸る。龜雄晚食後辭去。夜市中を散歩し、物品を購ふて歸る。

十一月十九日 雨。午前海軍々令部に至り、十二時同文会に根津を訪ひ、中食後辭出。歸途池邊吉太郎を朝日新聞社に訪ひ、四時歸る。柳原來訪。五時旧友の招邀に龜島町偕樂園に赴く。白岩、郡島、青木、緒方、本島、柳原來会。八時半散ず。風雨。

十一月二十日 雨。晌午家族と上野車站に至り、十一時四十分の汽車にて松戸町に至り、龜雄の家に投ず。夜松戸中学職員大作某來談。

十一月二十一日 晴。松戸滞在。午後松戸神社並に山中の競馬場に散歩す。夜六時龜雄の家を辭し車站に至り、六時四十八分の汽車に投ず。龜雄夫婦來送。七時半上野駅に達し、電車より日本橋の旅宿に歸る。郡島忠の信並に成松、緒方等來訪せりと云ふ。

十一月二十二日 晴。水谷彬來訪。午前同文会に至り根津、恒屋等に會し、中食後海軍々令部に至り第二局員並に伊集院次長に面し別を叙し、十一、十二、一、三ヶ月分の手当並に旅費日当合計四百九十二円を受取り、同文会より書院俸給十月分百円を領收し、去て參謀本部に福島安正氏を訪ひ、轉じて宮島大八を敲き、晩根津の招邀に赴き、八時緒方と共に歸る。川本静夫、桑原真次、柳原等來訪。蘇州辻武雄の信至る。

十一月二十三日 晴。午前十時池邊吉太郎の案内にて日本俱樂部に至る。土屋、池田來会。中食後寛談。三時半に至り池邊と日比谷に分れ、土屋、池田と青山墓地に至り佐々友房氏の墓に展し香花を備へ、四時歸寓。成松静雄、手島、川本静夫來訪。手島、成松を留め晚食す。夜緒方二三來談。土耳其古煙草二箱並に反物を贈る。池辺に発信す。

十一月二十四日 晴。午前古城、岡本、佐々、守田等の宅を訪ひ、十二時歸る。三時郡島忠次郎來訪。鳥居大阪よりの信至る。

十一月二十五日 晴。午前小谷、高木、中村三大学生來訪。白木屋呉服店を觀、午後三越に至り、轉じて銀座服部時計店に至り金鎖二条、戒指等を購ひ、五時歸る。土屋と會食す。七時土屋京都に歸る。夜龜雄夫婦、外一人來り宿す。青木喬來訪。

十一月二十六日 晴。午前家族並に龜雄夫婦と向島に遊び、言間に憩ひ有名なる団子並に汁子雑煮を食ひ、小汽船にて吾妻橋に至り浅草にて龜雄等と別れ、一時歸寓。又出て白岩を訪ひ、去て根津宅を敲き、五時半歸る。夜柳原夫婦、澤村晴夫來訪。

十一月二十七日 陰。根津一の信至る。之に復す。午後東明館に至り物品を購ふ。夜車を賃して歸る。

十一月二十八日 晴。午前内人と九段勸業場に至り物品を購ひ、正午九段坂上の小舗に就き中食し、外濠線を一週して歸る。安達謙藏來訪。夜緒方二三、柳原夫婦、白岩龍平來訪、深更辭歸。

十一月二十九日 晴。是日京を辭し西歸の途に上らんとす。早起行李を整頓す。午前九時上車、福屋を出て新橋に至る。十時の汽車に乗ず。擁擠殊に甚し。根津一、澤村晴夫、木村清等來送。函根に至り富士を天半に望む。積雪皚然、碧空に雄峙す。静岡に至れば夕陽映射、山色紫光を帶び其狀甚奇、從來の未だ見ざる所。夜十時三十六分名古屋に着す。志那忠旅館に投ず。

十一月三十日 陰。午前電車に乗り市中を巡視し、玉島町勸工場を觀て歸る。十一時龜山行の汽車に乗ず。弥富、桑名、四日市を経て十二時半龜山に達す。飛雪繚乱、寒威頓に催す。午後一時山田行の汽車に換坐し津、阿漕、松坂等の諸駅を経て三時半山田に着す。直に停車場前に於て二見行の電車に乗り、〇時十分二見に達し朝日館に投ず。此地一等の旅館にして規模宏大、浴場の設備整然見るべし。庭前は直に海に臨み青松白沙一帯相連り景致佳絶の地なり。浴後欄に凭りて夕陽に対す。濤声鞞鞞遠雷を聴くが如し。此地人戸六十許、旅館其半に居る。

十二月一日 晴。朝白沙青松の間を歩し夫婦石を觀、十一時の電車にて山田に帰り停車場前の油屋支店に投ず。中食後電車に乗り宇治に至り、更に車を賃して市中を過ぎ、宇治橋を渡りて下車し五十鈴川の清流に嗽ぎ、鬱蒼たる老杉の間を過ぎ、大廟を拝し、山田に帰り外宮に謁す。緒方二三に邂逅す。四時旅館を出で龜山行の汽車に乗ず。六時半龜山着。奈良行の車に換坐し、柘植を経て笠置駅に至り、笠置山を明月に望み、小詩一首を得たり。

踏谷幾〇東海間、閑遊累日好西還、車窓夢破感多少、寒月高〇笠置山。

九時半奈良に着し猿沢池畔の魚佐に投宿す。

十二月二日 陰。午前九時車を賃して春日神社に謁し、八重桜、二月堂、南円堂、興福寺、三笠山、手向山、大仏等を巡覽す。神社の境内麋鹿群を成す。二月堂にて汁子甘酒を取り、一時帰寓。中食後旅館を出で奈良駅に至り、三時の汽車に乗り柏原に赴き、富田林行の汽車を待つ。約一時間五時過富田林に着し上車、東林町の米原繁蔵の寓に投ず。晩食後閑話、十二時に至り就寢。

十二月三日 健晴。寓所は石川に臨み金剛、葛城の諸山に対し、赤阪の城址並に楠公の誕生地たる水〇〇望み景勝の地なり。午後米原と石川を渡り村社の辺に散歩す。夜赤塚豊来談。

十二月四日 晴。午後米原の家族並に妻子と郊外を散歩し、夜に入て歸る。帰途旗亭に投じ晩食し、大里猪熊を訪ひ、談話時を移して歸る。

十二月五日 晴。午前赤塚、大里来訪。午後二時半米原を辞し富田林駅に至り汽車に上る。米原夫婦〇送。古市、道明寺兩駅の間に於て日本武尊、安閑、允恭天皇兩帝の陵を拝し、薄田兼助の墓を弔し、天王寺を経て五時前湊町に着し、車を賃し東区内本町の鳥居の家に投ず。六時大阪朝日新聞社に鳥居を訪ひ、共に出て晩食し、去て西村天囚を松ヶ枝町に敲き、閑話時を移して歸る。

十二月六日 朝晴、午後雨。晌午鳥居一家と難波駅に至り上車、堺に遊び妙国寺に赴き、土佐藩士割腹の遺跡を訪ひ、屠腹の時に用ひし血痕斑々たる器物を觀、寺内に陳列せる加藤清正公の軍扇其他の古器物を縦覽し、有名なる大蘇鉄を看、菅原神社、松葉寺に展し、此地の名物たる大寺餅を買ひ、海浜の一力楼に投じて中食し、堺駅に至り上車、住吉を経て難波に下車し、鳥居の寓に歸る。雨。五時半鳥居、西村天囚、牧放浪、小池の招邀に魚岩楼に赴く。大阪一等の旗亭なり。新を談じ旧を話し、九時散歸。根津、白水館、郵船会社長崎支店に致書す。

十二月七日 晴。大阪滞在午〇〇〇小池信美来訪。夜鳥居家族と閑話し、深更就寢。

十二月八日 晴。西村天囚来〇〇時十分鳥居氏を辞し梅田車站に至る。十一時汽車にて西下す。鳥居夫婦、西村天囚、小池信美等来り送る。神戸にて石原逸太郎〇〇乗ず。一等室我一行と石原、外一外国人有るのみにして頗る寛綽たり。夜十時尾ノ道にて寢台を設けしめ寢に就く。

十二月九日 強風。午前四時〇床、六時馬関に達す。連絡船にて門司に渡り七時半の汽車に乗り鳥栖にて石原に分れ、一時前上熊本駅に達し白水館に投宿す。〇〇佐々干城氏来訪。

十二月十日 晴。大江に至り〇〇〇す。河口介男来訪。

十二月十一日 晴。上海福岡祿太郎、井手三郎、東京澤村晴夫等に致書す。午前県庁に至り家城某に面し、同文書院学生の学資増額の事を商量して歸る。夜井芹経平、藤本友喜、三津家傳之来訪。河口宅を訪ひ、九時歸る。

十二月十二日 雨。午前大江に至り行李を整頓し、晩歸る。山岡氏清、平山岩彦、岡辰喜来訪。

十二月十三日 雨。上海同文書院福岡に致書、十七日出発し能はざる事を報ず。大江に至り行李を整頓し了る。帰途武藤巖男氏を訪ふ。大阪鳥居、西村、牧、小池に礼状を発す。河口来訪。

十二月十四日 晴。午後津野、上野、澤村、大野謙等を訪ひ、四時帰る。武藤巖男、武藤虎太夫婦、澤村雅夫、河口介男、津野一雄、上野寅彦等来訪。

十二月十五日 晴。同文書院、井□□□に致書す。朝山田珠一來訪。午前鎮西館を訪ふ。夜武藤□□□静養軒に赴き、九時帰る。

十二月十六日 夜雨。日曜日。午後□□□来訪。夜緒方二三来談。

十二月十七日 晴。鳥居の信至る。□□□を訪ふ。午後上田正喜来訪。

十二月十七日 晴。午後内藤□□□来訪。夜上妻博之、池内源七、河口家族来訪。

十二月十八日 雨。河口宅の招□□□三時帰る。緒方二三を本荘に訪ふ。晚餐の饗を受け、八時帰□

十二月十九日 晴。長崎土佐屋□□□井芹経平来訪。午後平山岩彦来訪。大江に至り辞行、五時帰る。緒方二三夫婦、武藤虎太夫婦、山田珠一を招き晚餐を共にす。津野一雄、福島政太郎等来訪。

十二月二十日 陰。未明上熊本駅に至り荷物十二個を大野に托し長崎に送る。午後岳母、河口、角田政治、池内源七、甲斐一三、上妻等来訪。出て銀行に至り預金を為し辛島市長を市役所に訪ひ、五時帰る。山田珠一、中西正義、井芹経平等の招邀に静養軒に赴き、八時帰る。永野金十郎、澤村雅夫、井芹等来訪。矢島篤宣、安東大三の信至る。

十二月二十一日 陰。是日家を挙げ熊本を辞し清国に赴かんとす。佐々干城、中西正義、内藤儀十郎、山岡等来り別る。十時半白水館を出で上熊本駅に至り十一時二十四分の長崎行汽車に来ず。大野謙次郎、辛島格、武藤虎太夫婦、井芹経平、緒方二三、永野金十郎、町野健吉、上妻博之、津野一雄、上野寅彦、角田政次、隅田、河口介男等来り送る。守田愿の妻君並に津野一雄と同車たり。長洲にて津野□□鳥栖にて守田の妻と別る。九時半長崎に達し土佐屋□□□。

十二月二十二日 晴雨無定、寒□□□加ふ。根津一、不破昌材、矢島篤宣に致書す。午前長崎県庁並に市役所に至り同文書院学生学資増額の件を交渉して□□□。午後町田勸工業場に至り物品を購ふ。

十二月二十三日 雪。午後出て□□□購ふ。池田正誠来訪。四時池田を桜馬場舜徳寺に訪ふ、在らず。□□□武洪を訪ひ、五時帰る。

十二月二十四日 晴。午前□□□鳥次郎、茂木一郎来訪、昨夜の博愛丸にて帰来せる□□□。大野謙次郎に発信す。午後三時土佐屋を辞し春日丸に上る。五時開船。

十二月二十五日 晴。海上。

十二月二十六日 陰。午前十一時上海着。安河内、渡辺、根岸、福岡、外井手、島田、学生数人来迎。井手の処に入り中食し、午後二時馬車にて書院に帰る。夜職員諸氏並に学生等来訪。

十二月二十七日 晴。午後姚文藻を訪ふ、在らず。去て篠崎に至り小談。領事館永瀧を訪ひ、帰途井手に抵る。三時半帰る。井手在り。大谷藤次郎亦来訪せりと云ふ。

十二月二十八日

十二月二十九日

十二月三十日

十二月三十一日 夜根岸□□□□来訪。森氏除夜の作五古一篇を贈る。直に筆を援□□□、深更就寝。

3. 明治40年1月から12月までの日記

明治40(1907)年の日記は、1年を通した一綴じになっており、家族が前年から上海で同居していることもあってか、この年は上海から他地に移ることなく過ごした。

元日は、前々年、前年と同様同文書院で「聖影奉拝式」を主催し、書院監督としての仕事を引き続き行っていた2月7日に、熊本出身の学生が他県の学生を殴打する事件が起こり、宗方はその責任をとっ

て辞表を提出した。東亜同文会本部は当時上海にはいなかったはずの根津院長に15日間の謹慎処分を言い渡し、宗方に対しては辞表を受理したものの、責任は問わずに慰労金を出して責任は問わなかった。こうして監督の任を降りたものの、書院との関係はその後も続いていく。なお、1月6～16日の記載はなく、その後も3月11日までは飛び飛びに、しかも簡単な内容しか日記に記されていない。なぜだろうか。2月7日からは上記学生事件の後始末に追われて日記を書く余裕がなかったとも考えられるが、確認できる材料はなく不明とするしかない。日記をそれまで通り連日書くようになるのは、根津の処分が決まり、自らの辞表を提出したあたりからのことである。

後に触れるが、この年の海軍宛の報告の数は、数年来なかったほどに増え、平均するとひと月に3～4篇は書いており、明治33(1900)年の義和団事件時に匹敵する。それは、前年までと違って日本に戻らずに上海に留まっていたことに加えて、同文書院の職を辞した分調査や執筆に時間を割けられるようになったということも影響しているであろう。報告の内容について見ると、北京の高官の動きや軍隊内部の情報、鉄道敷設に関する外国との交渉内容等の雑多な紹介に交じって、「清国内地の不穏」「広東福建の匪乱」「革命党の陰謀」「浙江鉄道借款についての紛擾」等と題する北京政府や地方政府に対する各種の抗議活動が起こっていることを取り上げており、その中には、7月に安徽省安慶で起こった光復会の徐錫麟による巡撫射殺事件についても詳しく紹介し(報告第203号、205号、206号)、さらに各地の秘密結社についてもかなりのスペースで紹介しているのである(第214号)。このように報告の数を増したせいではないだろうが、この年4月から手当がひと月当たり30円増額され、3か月ずつまとめて支給される額は490円となり、ひと月当たりになると160円強となった。つまりは、3月まではひと月130円をもらっていたことになるが、日記を見る限りそれ以前必ずしもその額をもらっていたわけではなく、それより多い時も少ない時もある、その時々事情が加味されての額になっているようである。

この年の中国人との往来は、姚文藻との付き合いは相変わらずだが、北京に居て4年間会っていなかった汪康年が9月に戻ってからは何度も汪と会っている。また、以前から原稿を書くなどで関係があった時報館の館主狄楚青(葆賢)と会い、宗方が時報発行の名義人になることを契約したと日記に書き(10月30日)、その後時々狄と会っているが、宗方の『時報』への関わりについては今後注意してみいく必要がある。

また、1月27日に滬友会倶楽部に出席し、3月23日に新公園に遊び、3月24日に開導小学校の卒業式に参加、3月31日に義勇兵の操練を見学し、10月21日に民団の課金3ドルを払い、11月3日には新築の日本小学校落成式と居留民団の成立式に参加した等々と日記に書いている点で、その頃の上海の日本人社会の動きについて、もっと彼の日記に注意を払う必要があるとも感じた。

ここで明治40年に海軍々令部宛てに送った宗方の報告の日付けと号数を日記から拾い出す。書き方の要領は、前年分と同じである。

1月27日—第186号(上海社会科学院歴史研究所、以下には研究所と略称する、にある第186号は、日付けは1月23日、タイトルは「袁世凱勢力の失墜」)、1月30日—第187号、2月3日—第188号(『文書』では、1月30日)、(研究所所蔵では、3月5日—第189号「満漢の勢力比較」、第190号「四鎮総統衙門」)、3月17日—第192号(『文書』では、第191号)、4月5日—「報告二様」、4月20日—「報告」(『文書』では第195号)、5月2日—「報告」(『文書』では5月1日—第196号)、5月6日—「報告」(『文書』では第197号)、5月14日—「報告」(『文書』では第198号)、5月25日—第199号(『文書』では5月24日)、6月14日—「報告」、7月5日—「報告」(『文書』では202号)、7月13日—「報告」(『文書』では7月12日—第203号)、7月15日—「報告」(『文書』では204号)、7月18日—「報告」(『文書』では205号)、8月7日—「報告」(『文書』では8月6日—第206号)、8月8日—「報告」、8

月 14 日—「報告」(『文書』では第 208 号), 8 月 19 日—「報告」(『文書』では 8 月 18 日—第 209 号), 9 月 3 日—「報告」(研究所所蔵では, 第 210 号「袁世凱の勢力」), 9 月 7 日—「報告」, 9 月 28 日—「報告」(『文書』では第 214 号), 10 月 15 日—「報告」(『文書』では 10 月 14 日—第 215 号), 10 月 27 日—「報告」(『文書』では 10 月 26 日—第 217 号), 11 月 9 日—「報告」(『文書』では第 219 号), 11 月 19 日—「報告」(『文書』では 11 月 18 日—第 220 号), 12 月 4 日—「報告」(『文書』では第 221 号, 第 222 号), 12 月 13 日—「報告」(『文書』では 12 月 11 日—第 223 号), 12 月 17 日—「報告」。

明治四十年丁未正月起

日記

上海

正月元日 午前九時同文書院旧本部に於て 聖影奉拝式を行ひ勅語を奉読す。知人学生の来りて新を賀する者相踵ぐ。正午職員学生一同会食を行ふ。

正月二日

正月三日 井手兄弟, 大谷藤次郎, 河野久太郎, 外上海の各知友来りて正を賀す。午後南清艦隊旗艦高千穂の招宴に赴き四時帰る。帰途井手, 篠崎, 大谷列を訪ひ賀正す。

正月四日

正月五日 晴。午後梅鶴を携へ馬車にて永瀧領事の招宴に其の寓処に赴く。五時帰る。内外の知人二百余人に前日以来年賀状を發す。

正月十六日 夜熊本県学生, 上妻, 赤松, 熊谷, 松本, 那須, 松岡等を招き会食す。

正月十七日 夜熊本県学生, 町野, 野満, 清浦, 江尻, 上野等を招き会食す。是日午前柔道寒稽古の終了式に臨む。

正月二十日 晴。午前八時福岡氏と龍華に獵す。鳩一, 小鳥二羽を獲, 五時帰る。

正月二十三日 海軍々令部に第百八十六号報告を發す。

正月二十七日 陰, 夜雨。五時高橋, 根岸, 山田と北河南路滬友会倶楽部の披露会に赴く。主賓四十余人。予賓客を代表して招待の謝辞を述ぶ。八時帰る。

正月三十日 陰。孝明天皇祭。午前八時安河内, 山田純両氏と龍華の西に獵す。僅に鳩一, 小鳥三を獲, 五時帰る。寒威料峭。細川護立男の信到る。海軍々令部に第百八十七号報告を發す。

正月三十一日 午後領事館に至り学生大山列西門遭難の事に付き商量す。帰途井手友喜を訪ひ五時帰る。

二月一日 晴。夜安河内, 山田純三郎, 塩谷諸氏を招き会食す。根岸, 西本, 森, 及学生川口, 奈良, 外一兩人来訪。内藤熊喜来訪, 本日湖南より帰来せる者なり。

二月二日 晴。熊本井手三郎に復書す。

二月三日 雪。午前七時半安河内, 山田両氏と江を渡り浦東の三林塘楊泗橋一帶の地に獵す。鳩一羽, 小鳥五羽を獲。午後雨に变じ衣帽皆沾ふ。四時半帰る。藤井, 佐々木, 外二三子来訪。海軍々令部に百八十八号報告を發す。

二月四日 雨。夜赤谷, 中川, 森川等来訪。

二月五日 雨。細川護立男に復書し, 高洲太助, 鑄方徳藏, 船津辰一郎, 田中清司, 中島半次郎に致書す。夜根岸, 高橋, 西本, 平松等を招き会食す。福岡来訪, 本日鎮江より帰来せる者なり。鴨一羽並に盆を購る。

二月六日 雨。鎮江海津駒次に復書す。篠原力の信至る。夜川口, 相良来訪。

二月七日 陰。篠原邦威の信至る。其弟に与ふべき金二十五円を送り来る。篠原兄弟並に梅田某に致書す。是夜熊本学生道場に於て他四県学生を殴打し一場の紛擾を慥起せり。

二月八日 陰。若杉要，亀雄，田中耕太郎，白岩龍平の信至る。梅田某に篠原よりの送金二十五円を返却す。是日午前九時半と正午十二時十分の間に南寮に二度火災有り。幸にして大事に至らず。

三月一日 是日虹口愛而近路第三号に一屋を賃す。

三月二日

三月三日

三月四日 古閑次郎，村田宜寛来訪。

三月五日

三月六日

三月七日

三月八日 海軍水路技師飯塚太郎来訪。

三月九日 海軍大佐財部彪来訪。

三月十日

三月十一日 晴

三月十二日 朝雨，午後晴。是日午後三時より家具を纏め，新に租する所の愛而近路第三号に移転す。内田，古瀬来り助く。

三月十三日 雨。是日書院に赴かず。

三月十四日 朝書院に出勤，午後四時帰る。

三月十五日 是夜海軍々令部より電報至り，舟山島に匪乱起りしとの風説に付き事実の有無を問合はせ来る。是日書院俸給三月分を受取り厨子其他の計算を完る。

三月十七日 午前上海日報社に至り宮崎に托し海軍々令部に復電す。電費九弗八十銭。是日海軍々令部に第百九十二号報告を送る。島田，西本，池部来訪。夜西川，森，安河内来訪。東亜同文会副会長より書院紛擾事件に付き根津に十五日間の謹慎を命ずとの通報至る。是日永瀧領事を訪ひ，午後四時平井徳蔵の漢口行を停車場に送る。

三月十八日 是日根津に謹慎を命ずとの告示を公表し，同時に余の辞表を発送し，職員全部に此趣を通知し，学友会幹事並に室長会正副議長を院長事務室に招集し辞任の内意を示し，午後入浴後帰寓す。

三月十九日 陰。夜内田と古閑次郎を豊陽館に訪ふ。

三月二十日 是日午前自来火公司，人を派して至りガス燈の備付けを為す。

三月二十一日 微雨。午後家族と島田を訪ひ，入浴して帰る。

三月二十二日 雨。是日自来火公司より自来火の設備費三十一弗を要求し来る。之を給付す。夜篠崎，森，安河内来訪。

三月二十三日 晴。午前内人と「リクレーション」，新公園に遊び正午帰る。

三月二十四日 雨。午前開導小学校の卒業式に臨む。是日根津来着。高橋正二，藤井太七，井手友等来訪。

三月二十五日 晴。午後同文書院に至り根津を訪ひ四時帰る。是夕古屋畳八枚を送り来る。夜古屋の琵琶を聴く。森，高尾茂，安河内来会。

三月二十六日 午前上海日報館に至る。是日太和洋行並に河野宅に物品を贈る。

三月二十七日 晴。夜藤井来訪。

三月二十八日 是日午後渡邊繁蔵来り余の辞職決定の事を報じ，並に書院より慰勞として俸給五ヶ月分を寄贈する事を伝ふ。夜三木，千田来訪。海津駒次の信至る。

三月二十九日 雨。午後町野、西本、野満、井手、古閑、上妻、赤松、松本等来訪。午後四時吉坂に至り学生古閑、西本等と撮影し、四時半熊本学生一同の招宴に杏花楼に赴き、七時帰る。

三月三十日 晴。豊職来る。午後川口、相良、奈良、安河内、森等来訪。夜内田、町野、池部、上妻来訪。福島豊太郎来訪。

三月三十一日 晴。午後篠崎来訪。清子を携へ馬車を同ふし靶子場に至り義勇兵の操練を觀、帰途篠崎の病院に小坐。四時半篠崎の馬車にて帰る。是日午前大谷藤次郎来訪。夜川畑生来訪。

四月一日 晴。午後海津駒次来訪、大東公司を辞し三日の船にて帰国すと云ふ。井手と洋服店に至り清子の衣服を注文し、帰途井手、篠崎、海津、福島等を訪ひ帰る。川口、有安両学生、新来の高尾藤五郎を伴ひ来る。安河内、高尾茂来訪。夜上原医生来談。是日ボーイ彰貴を解傭し一ヶ月分の薪水を与ふ。

四月二日 晴。朝三月分家賃三十弗を支払ふ。田中耕太郎、白石卯一の信至る。西本省三来別。同文書院を辞し明朝船にて帰国する者なり。清浦奎吾氏に紹介状を与ふ。九時清子を携へ上車、上海日報社に至り、井手を誘ひ郵船埠頭に至り、西本省三の帰国を山口丸に送る。海津駒次の帰国に托し白岩龍平に致書す。十時半帰る。

四月三日 晴。午後清子を携へ井手を誘ひ福利公司其他二三戸に至り、清子の洋服並に附属品を購ひ、帰途井手の処に小談、三時帰る。大工来り室内の造作を為す。夜川畑豊次来訪。河野久、古屋勝太郎来談。十時半帰る。

四月四日 雨。午前姚文藻来訪。川畑生、張、許兩人を伴ひ来訪。午後森茂来談。夜藤井来訪。

四月五日 晴。午前福岡禄太郎来り鹿肉を贈る。昨日杭州より帰来せる者なり。海軍々令部に報告二様並に電報料請求書を送る。井手三郎に発信す。清子麻疹に罹る。篠崎来診。夜大和洋行諸人を訪ふ。

四月六日 晴。田中耕太郎と白岩龍平の信至る。午後井手を訪ふ。紀成虎一、蔵原惟昶、並に学生清水芳次郎、内田茂二来訪。清水等の為に北京川島浪速に添書を与ふ。晩篠崎来診。夜古屋の筑前琵琶会を催す。森、安河内夫婦、松島、熊本、島田、杉尾両夫婦来会。十一時散ず。

四月七日 晴。午前八時半江湾の東方郊外に獵す。小鳥一羽を獲たるのみ。二時帰る。秦長三郎、及び川口、森岡、有安三生来訪。其北清旅行に付川島浪速、三浦喜傳に添書す。古瀬、内田来訪。

四月八日 微雨。朝藤井太七来り桃花数枝、新柳一枝を贈る。午後四時蔵原惟昶、井原真澄を豊陽館に訪ひ、六時蔵原と井手友喜の招邀に杏花楼に赴き九時帰る。会する者蔵原、紀成、島田、井手、及び予の五人なり。佐々木、武藤来り十一時去る。

四月九日 晴。根津一、上妻、池部鶴彦等来訪。上妻列今夕より北清旅行の程に上るを以て、宇野哲人、甲斐寛中等の諸人に紹介状を与ふ。午後廣瀬貞文来訪。川口市之助、有安一雄、宝珠山弥高前後來訪。今夕上船、修学旅行の爲め北清に赴く者なり。武昌鑄方德蔵、漢口橋三郎、宝妻、澤村等に致すの書を作り、蔵原惟昶を紹介す。其今明日を以て漢口に赴くを以てなり。

四月十日 晴。西本省三（菊池郡瀬田村）、上妻博之、成松静雄、鳥居赫雄の信至る。晩蔵原惟昶の招邀に豊陽館に赴く。会する者島田三郎、井手友喜、紀成虎一、尾崎、肥田、高柳、外一名なり。九時半帰寓。藤井来訪。

四月十一日 健晴。午後家族と停車場附近の郊外に散歩す。春色如海、麦緑菜黄、宛然郷国の風致なり。晩食後蔵原を豊陽館に訪ひ別を叙して帰る。其の本夕を以て漢口に赴くを以てなり。夜安河内弘来訪。西村天囚、上妻博之に致書。

四月十二日 健晴。古屋勝太郎来別、明日より帰国すと云ふ。午後長尾楨太郎、紀成虎一來訪。

四月十三日 晴。赤谷由助、波多博、相良利吉、内田友義来訪。田岡正樹、岡幸七郎の信至る。

四月十四日 健晴。日曜日。神津助太郎来訪。晌午河野の家族と家を挙げ馬車にて龍華に至り桃花を觀、三時帰る。

四月十五日 晴。午前渡辺繁蔵来り慰労金の中二百円を贈る。午後重慶領事徳丸作蔵来訪、相見ざる五年、昨日帰来せりと云ふ。四時徳丸の蘇州行を車站に送る。夜森茂、高尾茂来訪。土屋員安、真島次郎、井手三郎、田中耕太郎の信至る。田中よりは来月より手当三十円づつ増加の事を通知し来る。

四月十六日 晴。海軍々令部田中耕太郎に致書す。岡幸七郎に復書す。午後清子を携て篠崎医院に至り診察を受け、帰途豊陽館に橘三郎を訪ひ帰る。三時又出て吉永、秦長三郎、大谷、河野等を訪ふ。廣瀬貞文来訪。夜高尾茂来訪、本夕より南京、漢口に赴くものなり。船津辰一郎、鍔方徳蔵に紹介状を与ふ。清子を携へ徳丸作蔵を東和洋行に訪ひ、九時帰る。藤井太七来談。

四月十七日 陰。高橋正二、安河内弘来訪。海軍々令部より五、六、七の手当並に四月以降の手当増額を合せ五百二十円を送り来る。晩本莊徳太郎、松鳥来訪。岡幸七郎の信至る。

四月十八日 雨。午後福岡禄太郎来訪、杭州の蕨を贈る。晩杏花楼の宴に赴く。会する者根津一、大谷藤次郎、中野熊五郎、澤本、秦、高橋、河野、土井、古莊弘、及余の十人なり。八時散ず。

四月十九日 雨。午後篠崎来て内人並に清子の病を診す。

四月二十日 陰。海軍々令部に報告を發し、別に軍令部副官に手当領収証を送る。土屋員安、伊藤久志、角田政治に致書す。是夜滬友会俱樂部より小集の通知有り。辞して行かず。夜内田、藤井来訪。

四月二十一日 陰。午前郵便局に至り投函す。午後医士秋田康世、及び島田夫婦、熊本学生一同来訪。森茂来訪。晩根津一の招邀に杏花楼に赴く。九時帰る。

四月二十二日 晴。晌午相良利吉来訪。澤村晴夫大連よりの信至る。

四月二十三日 晴。午前領事館に村山を訪ひ、帰途井手友、篠崎等を敲き帰る。保定田岡正樹に致書す。澤村晴夫、成松、真島に復するの信を認む。大阪牧卷次郎より其著黒住宗忠を贈り来る。

四月二十四日 晴。牧卷次郎に致書す。午前滬報館に井手友喜を訪ひ、去て村山を領事館に敲き晌午帰る。岳翁、津田静一、山田純三郎の信至る。夜安河内弘来訪。

四月二十五日 陰。午前根津一、大原武慶来訪。大原は昨日帰着せる者なり。奉天一宮より箱崎志津摩死去の訃を伝ふ。北京川口、有安、森岡三学生の信至る。熊本平田彦熊に致書。別に一宮に箱崎の死を弔す。

四月二十六日 陰。

四月二十七日 晴。朝根津一の帰国を博愛丸に送り、帰途村山、井手に抵り晌午帰る。午後橘三郎来訪。夜内田、藤井来談。

四月二十八日 晴。日曜日。六時江湾の東方に獵す。鳴二、鷺一を獲て一時帰る。高橋正二来訪。西本省三の信至る。

四月二十九日 雨。井手友喜来訪。岡幸七郎、平井徳蔵、高尾茂、田中耕太郎、渋谷繁次の信至る。平井に復書し、森茂に致書す。夜白岩龍平来訪。

四月三十日 晴。夜島田を訪ふ。

五月一日 晴。早朝井手三郎を迎ふ。午後井手、村山等を訪ひ五時帰る。角田政治、緒方二三、岡幸七郎、宇野哲人、池部鶴彦の信至る。高尾茂来訪。

五月二日 晴。午後井手三郎来訪。篠原邦威の信至る。海軍々令部に報告を發す。尾越辰雄に致書す。夜松島来訪。

五月三日 晴。午前五時より靶子場の東方に獵す。鳴四、鷺一を獲、十一時帰る。河野久来訪。共に出て大谷を訪ひ小談。去て豊陽館に角田隆郎、橘三郎、水野幸吉等を訪ひ、帰途村山、井手、吉永を敲き帰る。

五月四日 微雨。阿南、波多両生来訪。晩藤井、内田を招き晚餐を饗す。渡部正雄に致書す。

五月五日 朝雨。詰朝出獵せんとす。雨を以て已む。八時半村山正隆来る。即ち俱に郊外に出獵す。僅に鳴一羽を獲て二時帰る。是日旧友会の約有りしも時刻に後れ参会せず。安河内、渡辺、阿多、太田

政徳、沈文藻父子、並に三年生川口、有安、森岡等来訪せりと云ふ。午後町野、上妻、赤松、宝珠山、松尾等来訪。西本省三、田中耕太郎等の信至る。

五月六日 雨。緒方二三、西本省三に復書す。別に海軍に報告を發し、岡幸に致書す。高尾茂の信至る。渡部正雄に致書す。

五月七日 晴。午後井手を訪ひ帰。大東に大谷、河野を敲き、又去て白岩龍平を訪ひ四時帰る。天津坂田長平の信至る。北京池部鶴彦に發信す。

五月八日 晴。四時半より郊外に獵す。村山来会。鳴二羽を獲、八時半帰る。今井邦三来訪。之を留て晩食を饗す。夜酔酒の西人有り。其知人の家と誤認し門を敲て之を破る。

五月九日 晴。晌午内田康哉招待会に日本人俱樂部に赴き二時帰る。夜白岩宅を訪ふ。河口介男の信至る。

五月十日 晴。朝阿多廣介を訪ひ、九時丹波丸に至り内田康哉の塙国に赴くを送り、帰途村山、井手を訪ひ十一時帰る。柳原又熊の信至る。岳父翁、柳原又熊に復書す。高洲太助、田中耕太郎に致書す。

五月十一日 晴。九時内子と白岩細君の帰国を弘済丸に送り、帰途井手、橘を一訪して帰る。午後河野、桑原、川口、安河内来訪。桑原に靴代八円半を払ふ。晩内田、川口、藤井来訪。白岩の招邀に月ノ家に赴く。会者白須直、大谷藤二郎、河野久、及予なり。九時半辞帰。白須は重慶に転任する者なり。山根虎ノ助の信至る。

五月十二日 晴。山根虎之助に復書す。別に福州前田彪、熊本河口介男に復書す。午前池田精一來訪。午後白須直来訪。夜家族と島田を訪ふ。

五月十三日 晴。岡幸七郎の信至る。午前家族と白須直を東和洋行に訪ふ、在らず。

五月十四日 晴。保定田岡正樹の信到る。午後白須を訪ふ、在らず。晩蔵原惟昶の招邀に豊陽館に赴く。帰途篠崎を一訪して帰る。海軍々令部に報告を發す。

五月十五日 陰。

五月十六日 雨。高洲太助の信至る。午後井手来訪。姚文藻より晩餐の案内有り。微恙を以て辞す。

五月十七日 陰、霾、雨、雹。海軍田中耕太郎に致書す。午後郵便局、領事館、大東を歴訪し、白須直を東和洋行に訪ふ。曾根俊虎在焉。白須は本夕出發、重慶に赴任すと云ふ。九時白須直を大利丸に送り十一時半帰る。

五月十八日 晴。天津三浦喜傳の信至る。午後記紀成虎一、川口市之助、町野晋吉、菊池武二、内田友義来訪。夜赤谷由助、藤井太七来談。

五月十九日 晴。日曜日。朝四時北郊に獵し鵒に似たる鳥二羽を獲。味甚美。午前熊谷直幹、河野久太郎来訪。午後安河内、遠山景直、村山貞吉来訪。東京緒方二三の信至る。夜太田政徳夫婦来訪。

五月二十日 晴。午後森茂、川口市之助、有安一雄、述功、遠山景直等来訪。末永一三より金島文四郎の訃を告ぐ。

五月二十一日 陰。尾越辰雄、田中中佐の信至る。

五月二十二日 陰。末永一三に復書す。川畑豊治、川本静夫、田中耕太郎の信至る。夜渡邊繁藏来訪。

五月二十三日 陰。午後上原、宇佐太郎来訪。安河内来り書院慰勞金の残額三百七十四円を贈る。

五月二十四日 晴。午後英界に至り食卓其他三品を購ふ。代二十三円半。井手友喜来訪。晩松鳥来訪。

五月二十五日 晴。八時井手友喜夫婦の帰国を春日丸に送る。午前井手と軍艦高千穂に至り玉利司令官、戸波艦長を訪ひ十一時帰る。来二十七日高千穂より日本海海戦の祝日に付きアトホームの案内有り。海軍々令部に第百九十九号報告を發す。川本静夫に復書す。内田友義、川口市之助、波多博、阿南鎮民、藤井太七、古瀬、島田夫婦、熊谷直幹、松岡等来訪。十時帰る。

五月二十六日 晴。朝河野を訪ふ。午後奈良、佐藤、外一名来訪。村上貞吉来り晩餐の案内を為す。野満四郎、上野某来訪。七時村上の招邀に杏花楼に赴き八時半帰る。同座は長尾楨太郎、秋田医士、外

二名なり。

五月二十七日 晴。岡幸七郎の信至る。之に復す。午後三時清子を伴ひ軍艦高千穂の海軍祝賀会のアトホームに赴く。艦上にて水兵の演劇、角力、剣舞等有り。六時半辞帰。古屋勝太郎来訪。

五月二十八日 晴。

五月二十九日 晴。朝北四川路高岩宅に至り家屋を見、去て大原武慶の帰国を送り、井手を一訪して帰る。熊本古荘弘に其巖君の死を弔す。奈良崎八郎死去の訃並に三浦喜傳の四男病死の訃至る。海軍々令部田中耕太郎の信二通、北京池部鶴彦、熊本河口介男、田中清司の信至る。川口市之助、北脇両生来訪、中食後去る。杉本、前島両生来訪。晡時篠崎都香佐来訪。波多博来訪。

五月三十日 晴。午後内人と村上貞吉宅を訪ふ、在らず。午後古屋勝太郎、澡桶を運び来る。奈良崎發、三浦喜傳に弔詞を發す。海軍々令部に第二百号報告を發す。

五月三十一日 晴。工学士西村熊三、天津瀬上恕治の紹介にて来訪。赤谷由助来訪。北京川島浪速、熊本河口介男に発信す。夜郵便局に至り、帰途西村、赤谷、古屋、本莊等を乍浦路に訪ひ九時帰る。

六月一日 雨。午後郵便局、正金に至る。夜内田、藤井、米良貞雄等来訪。町野晋吉来訪。

六月二日 陰。午前波多博来訪。東京守田愿の信片至る。午後西村熊二来訪。夜島田数雄来訪。

六月三日 雨。午後正金、郵便局に至り預金を為す。学生五島聰千代、久保田清以下八名来訪。夜安河内弘来談。熊谷直亮の信至る。

六月四日 晴。松本、外一人来訪。撫順山田純三郎の信至る。海軍々令部より電報至り、地図、書籍の購入を依頼し来る。

六月五日 晴。午後森茂、村山正隆来訪。森を留て晩食を共にす。前田、田中、岡幸七、緒方二三、及び佐々文庫設立の件に付き安達謙蔵の信至る。森に托し海軍より依頼の書籍、地図を購入、代十三円余。岡幸七郎に木下宇三郎の信を転寄す。

六月六日 晴。朝郵便局に至り小包にて軍令部に地図を郵寄し、帰途泰東同文局に至り阿多を訪ひ、昨日購入の読史方輿紀要、郡国利病書を軍令部に郵送の事を托して帰る。田中耕太郎、前田彪、安達謙蔵、橘三郎、瀬上恕治に致書す。

六月七日 晴。昨夜自用の人力車盗人に偷み去らる。朝赤谷を煩はし海霧路の警察署に至り盗難の届を為す。夜長尾楨太郎来訪。

六月八日 晴。午後井手三郎、白岩龍平来訪。白岩の馬車にて張園附近迄至り、直に折回して六三亭の小集に赴く。白岩、大谷、村山、井手、佐原、及び余の六人なり。九時帰る。熊谷直亮、川畑豊治に復書す。

六月九日 雨。田中耕太郎、井手友喜、蔵原惟昶、西村熊二の信至る。午前呉淞に赴かんと期せしも雨を以て已む。内田、藤井来訪。

六月十日 晴。田中耕太郎、莊村秀雄、平井徳蔵の信至る。午前警察並に白岩、大谷を訪ひ十一時半帰る。漢口平井徳蔵に復書し、橘三郎に致書す。夜古屋、本莊を訪ふ。

六月十一日 陰。午前井手を訪ひ石崎生の建碑寄附金五円を渡し、晌午帰る。晩井手、島田を招饗す。姚文藻、藤井、上多助二、古屋来訪。

六月十二日 大雨。午前白岩龍平の帰国を送る。午後赤谷由助、森茂来訪。

六月十三日 晴。午後河野久太郎来訪。夜大谷藤次郎を訪ふ。岡幸七郎、河口介男、三浦喜傳、古荘弘の信並に緒方二三より写真を送り来る。

六月十四日 晴。是日より氷を用ゆ。午前郵便局に至り海軍への報告を郵送す。森、安河内、渡邊、古屋、本莊諸氏に晩餐を饗し、夜に入て古屋の筑前琵琶を聴く。井手、島田、長尾、河野等亦来会。十一時散ず。末永一三、金島未亡人の信至る。大谷来り辞行。

六月十五日 晴。正午内人と郵船埠頭に至り、大谷藤次郎夫婦の帰国を春日丸に送る。午後河野久、村

上貞吉来訪。夜藤井、内田来訪。

六月十六日 微雨。

六月十七日 雨。午前理髪。吉田順蔵来訪。井手友喜に復書す。

六月十八日 晴。午前郵便局に至り利子受取の爲め通帳二冊を出し、帰途井手を訪ひ晌午帰る。狩野直喜、佐々干城、川畑豊治の信、並に九州日々新聞社より預金の利子を送り来る。岳翁の信至る。

六月十九日 晴。内田友義来訪。夜安河内弘来訪。

六月二十日 晴。海軍田中中佐、狩野直喜、宇野七郎に致書す。朝領事館に至り競売を観る。井手の処に中食し午後帰る。橘三郎の信至る。宇野海作に致書す。夜市街に散歩し表鎖を購ふ。

六月二十一日 晴。午前出て家屋を覓む。途中平井徳蔵に邂逅す。晌午平井を訪ふ。午後鑄方徳蔵来訪、本日漢口より来着せりと云ふ。軍令部田中少佐並に橘三郎に致書す。熊本県学生数人来訪。夜実業倶楽部に於て同文書院卒業生の離宴を開く。学生全部と井手、島田、秋田、古閑、及余の十余人相会す。散後弘済丸に至り鑄方、平井を送り十時帰る。

六月二十二日 晴。内田、藤井来訪。夜家族を伴ひ古閑次郎の招宴に日本人倶楽部に赴く。洋食の饗あり。余興に浪花節、義太夫の催有り。十一時帰る。

六月二十三日 晴。午前佐々木武蔵、内田友義来訪。午後御幡雅文夫婦、三井島田某、並に熊谷、外一人来訪。午後阿南、波多、町野、上妻、赤松諸子来訪。留て晩食を共にす。是夜内田友義、岳陽号にて漢口大倉公司に赴く。夜赤谷、古屋列、古閑二郎を訪ふ。

六月二十四日 晴。午後渡邊繁蔵、松岡玄雄来訪。五時半本莊徳太郎来る。輿に出て有恒路に至り家を見る。晩赤谷由助、佐々木武蔵を招饗す。藤井太七来訪、十時去る。軍令部より書籍地図代金を送り来る。岡幸七郎、荒木七十郎の信至る。

六月二十五日 晴。午後郵便局に至り預金を為し、帰途井手を訪ふ。晩家族と勝木恒喜を豊陽館に訪ふ。楠三郎の信に接す。

六月二十六日 晴。午前寺中猪介来訪、武昌より来着せる者なり。川口市之助、有安一雄、高尾藤五郎等来訪、留て中食を共にす。晡時井手、岡幸七郎来訪。岡は本日帰着せる者なり。夜に入て去る。河野久来訪。川畑豊治の信至る。

六月二十七日 晴。午前寺中を田中旅館に訪ひ、去て岡幸七郎を訪ひ、正午帰る。午後町野、上妻、仲田等来訪。六時井手の招邀に杏花楼に赴き、九時帰る。

六月二十八日 晴。午後岡幸七郎、渡辺繁三、熊谷直幹来訪。岡、熊谷を留て晩食す。夜岡と出て寺中の帰国を送り、滬報館に至り岡、井手と談じ九時帰る。安河内来訪せりと云ふ。

六月二十九日 晴。午前北四川路に至り家屋を見、午後赤谷、井手、岡を訪ひ、五時帰る。赤谷来訪。

六月三十日 晴、熱甚。午後二時井手、岡と同車、同文書院の卒業式に臨み、五時半帰る。夜松岡玄雄、藤井太七来訪。

七月一日 晴。午前藤富来訪。午後森岡正平、今井邦三、熊谷直幹来り別を告ぐ。森岡、今井は同文書院卒業、帰国する者なり。午後町野、笹山、仲田、赤松、赤谷等来訪。山崎誠一郎の信至る。夜武林洋行の宿舎を訪ふ。雷雨。

七月二日 晴。午後同文書院生徒松原豪、外四名、並に岡幸七郎、川上又治、川口市之助等来訪。漢口橘三郎より漆器二点を贈り来る。夜熊谷直幹、町野、田邊二吉、赤松、松岡等来り別を告ぐ。藤井来訪。

七月三日 雨。郵便局、井手に至り正午帰る。野満四郎、上妻博路来訪。夜佐原篤介、波多博来訪。波多本夕より北京に赴くを以て鈴木直八、池部鶴彦に添書す。田中耕太郎、内田友義の信至る。

七月四日 雨。梶村吉路来訪。午後上妻、井手、岡来訪。夜宝珠山、権藤、笹山卯三郎、五島聰千代等来談。

七月五日 大雨。白岩龍平、深水十八、川畑豊治に致書す。海軍々令部に報告を発す。東京橋三郎に致書す。内田友義の信至る。之に復す。森茂来別、今夕上船帰国する者なり。夜安河内夫婦来別。八時春日丸に至り森、安河内を送る、在らず。名刺を留めて帰る。夜更辻武雄夫婦来訪、同く春日丸にて帰国する者なり。

七月六日 積陰、炎蒸殊甚。午前川口市之助来訪。午後上妻、松本、日高、榎木、河野久来訪。夜藤井、萩原勝三来訪。

七月七日 晴。日曜日。正午上海日報一千号の内宴に杏花楼に赴き四時帰る。北京宇野海作の信至る。晩川口市之助、有安一雄、相良利吉を招き饗す。十時去る。

七月八日 晴。川畑豊治の信至る。宝妻寿作、上妻博之の信至る。朝同文滬報に至り、去て領事館に村山を訪ふ。晌午帰る。野満四郎来り中食後去る。午後上妻博路来訪。川口市之助来る。晩食を共にし九時帰る。久保田清、松田藤男、河野久太郎等来訪。昨日安徽巡撫恩銘、警察局会弁候選道徐錫麟の為に銃殺せらる。

七月九日 雨。海軍々令部に教書す。正午井手、岡を招き中食を俱にす。午後四時去る。日高生来訪。晩野満四郎、上妻博路、松本清司の三生を饗す。本夕内地に旅行するを以てなり。

七月十日 雨。朝田辺二吉来訪。十一時根津一の帰国を送る。井手の処に中食し三時帰る。岳翁、内田友義、松倉善家、佐野直喜、亀雄の信至る。

七月十一日 晴。岡幸七郎、井手三郎を中食に招く。滬報館に晩食し、九時岡の漢口行を大福丸に送り十一時帰る。松倉善家、橋三郎に致書す。

七月十二日 晴。土屋員安東京よりの信至る。午後馬車にて家族と西門外に至り上原宇佐太郎を訪ひ四時半帰る。

七月十三日 陰。海軍々令部に報告を発す。午前川口市之助、有安一雄来り別る。十一時井手の処に至り、中食後永瀧久吉、川口、有安等の帰国を送る。夜三浦義臣、古屋勝太郎来訪。

七月十四日 雨。熊谷直亮、奈良一雄の信至る。夜藤井来訪。家族と共に出て仏租界に至り革命祭を観る。

七月十五日 微雨。午後郵便局に至り利子記入の為に差出し置きし通帳二冊を受取り、井手の処に小談帰る。海軍々令部に報告を発し、熊谷直亮に復書す。久留米高橋正二の信至る。晩赤谷由助、藤井太七を招邀す。

七月十六日 雨。午後姚文藻を新馬路に訪ふ、未だ蘇州より帰らず。土屋員安、高橋正二に復書す。

七月十七日 半晴。根良利吉、河口介男、荒木七十郎、野満四郎列の信至る。午後家族と御幡宅を訪ふ。夜河野、藤岡等を訪ふ。

七月十八日 雨。午前高筒信重来訪。午後郵便局に至り海軍々令部に報告を郵寄し、別に書留を以て第九、肥後両銀行の預金通帳四冊を熊本肥後銀行紫藤猛氏に郵寄す。船越誠一、赤谷由助来訪。夜赤谷の長沙行を送る。

七月十九日 微雨。午前英租界に至り玩具と筆を購ふ。午後郵便局に至り河口介男と女学世界社に為替を送る。加藤駒二の信至る。之に復書し南満洲商業と題する書籍を贈りしを謝す。佐野直喜に筆を贈る。船越誠一の帰国に托するなり。夜河野来談。

七月二十日 陰。夜田辺、丹、外一人来訪。

七月二十一日 晴。松倉善家、内田友義、白岩龍平、岡幸七郎、波多博の信至る。午後松島、両川来訪。夜藤井来談。

七月二十二日 雨。緒方、安河内に致書す。岡幸七郎に致書。午後橋三郎を豊陽館に訪ふ。夜河野久を敲く。

七月二十三日 晴。武藤虎太、松田藤男並に海軍副官の信至る。海軍々令部より八、九、十、三ヶ月分

手当金四百九十円を贈り来る。岳翁の信至る。晩近隣の小児を招き会食す。夜藤井太七来訪。

七月二十四日 晴。午後河野来訪。夜島田数雄宅を訪ふ。

七月二十五日 晴。武藤虎太，海軍田中，韓国佐々干城，同正之，軍令部副官に手当領収証を郵寄す。領事館に村山正隆を訪ひ，帰途井手を敲き五時帰る。鈴木直八，川口市之助の信至る。川口市之助に写真を郵送す。夜河野来談。

七月二十六日 晴。夜渡邊繁三来訪。

七月二十七日 晴。午前橘三郎を豊陽館に訪ふ，在らず。夜御幡雅文を訪ひ十時帰る。是夜月食。藤井来訪せりと云ふ。

七月二十八日 晴。日曜日。午後両川藤次郎来訪。三時清子を伴て御幡宅に至る。夜河野久太郎来訪。

七月二十九日 晴。山岡氏清，清浦奎吾，莊村秀雄，田中清司，亀雄，中西正義，熊本農学校長諸氏に致書す。中西と農学校には香瓜，常熟西瓜の種子を郵送す。午前海軍の平井徳蔵来訪，昨日来着せりと云ふ。宇土人手島均並に米良貞雄来訪。熊本紫藤猛より来信，預金通帳を送り来る。笹山卯三郎，梶村吉路の信至る。紫藤，笹山，川畑に復書す。白須直重慶よりの信並に宝妻の書至る。夜平井少佐の漢口行を大利丸に送り，十時帰る。

七月三十日 晴。野満四郎，河南省堰城県よりの信至る。午後佐々布質直来訪。夜福田規矩蔵，両川藤次郎来訪。

七月三十一日 微雨。午前福田来訪。午後手島均，佐々布質直来訪。

八月一日 雨。山内崑，吉田豊喜，熊谷直亮，有安一雄，相良利吉，阿南鎮民，亀雄等の信至る。佐々布，手島兩人を招き晩食を饗す。

八月二日 陰。山内崑，根津一，熊谷，吉田，亀雄に致書す。午後松岡玄雄，橘三郎，吉富直澄来訪。夜河野と楠三郎の帰国を送り，十時帰る。

八月三日 晴。夜佐々布来訪。

八月四日 午後大雨。森茂東京よりの信至る。

八月五日 雨。福田，河野，佐々木来訪。佐々木より西瓜を贈り来る。

八月六日 雨。赤谷由助，波多博，中西正義，熊本農学校，熊谷直亮の信至る。晩深澤暹の招飲に新太和に赴く。会する者堀，佐原，御幡，小林，及予の主客六名なり。古屋来訪。

八月七日 晴。海軍軍令部に報告を發し，外に森茂，白須直に復書す。佐々木武蔵来訪。松倉，渡部正雄，田中清司の信至る。緒方二三，清浦奎吉に致書す。夜深澤暹を豊陽館に訪ひ九時帰る。

八月八日 晴，熱甚し。佐々干城，上多助二の信至る。元山義典，山田珠一，田中清司に致書す。古屋来訪，今夜より南京に赴くと云ふ。船津辰一郎に紹介状を与ふ。児玉右二篁南来訪，皮酒一打を贈る。吉永勘二来訪。海軍軍令部に報告を發す。夜出て古屋，深澤を送る。深澤は漢口領事館に赴任する者なり。豊陽館に児玉右二を訪ひ，九時半帰る。

八月九日 晴。是日立秋。湘潭上妻博路の信至る。晩古閑次郎，藤井太七来訪。古閑は明日帰国すと云ふ。

八月十日 晴。朝福岡禄太郎来訪。十一時古閑次郎の帰国を送る。井手の処に中食して帰る。澤村幸夫，阿南鎮民の信至る。熊谷直亮に致書す。夜河野久太郎来訪。鎮江産の石菖二鉢を贈る。

八月十一日 晴。森田某，高尾藤五郎来訪。

八月十二日 晴。宇土奥村宅に盆会の香花料五円を贈る。外に野添叔母に五円を贈る。森田一義より菓子二点を贈り来る。上妻博之，清浦奎吾，安河内弘，野添熊太諸氏の信至る。奥村傳，野添熊太両家に致書す。大谷藤次郎の信至る。

八月十三日 晴。午前児玉右二来訪。海軍軍令部に致書す。内田友義の信至る。西田龍太に致書し，大谷藤次郎に復書す。宇土太田重友に其父の死を弔す。

八月十四日 晴。午前高道武雄来訪、香港より来れる者。相見ざる十一年、現に正金銀行香港支店を主管する者なり。中食後郵便局に至り投函す。海軍に報告を送る。帰途豊陽館に森田一義を訪ひ小談帰る。松岡玄雄来訪。相良利吉、有安一雄、早川某来訪、本日来着せりと云ふ。晩佐々布質直来訪。井手三郎、藤井太七、佐原篤介、外一人来訪。

八月十五日 晴。是日陰曆七夕たり。晩有安、相良を招き晩食す。両人は本夕出発漢口に赴く者なり。水野、岡、内田、澤村等に致すの書を托す。

八月十六日 晴。高筒信重の信至る。午前高道武雄を佐々木医院に訪ふ。本日出発福州を経て香港に帰る者なり。帰途河野を大東に訪て帰る。森田一義来訪せりと云ふ。藤井を招き晩餐す。

八月十七日 晴。

八月十八日 晴。午後渡辺繁三来訪。夜河野、大山、外一人来訪。川口市之助、平井徳蔵、緒方二三、若杉要、三島真吾の信、並に長沙浅井平吉死去の訃、及び廣瀬貞治の父の訃音至る。

八月十九日 晴。海軍々令部に報告を發し、廣瀬及び漢口浅井の知人に弔詞を送る。三島に復書す。午前郵便局に至り、帰途井手を訪ふ。

八月二十日 晴。森田一義来訪。高橋正二の信至る。夜家族と公園に至り楽を聞く。阿部野利恭の信至る。

八月二十一日 晴。川口市之助に復書す。午後井手と軍艦に赴かんとし小蒸氣に後れて果さず。児玉右二、大村葉来訪。

八月二十二日 晴。平井徳蔵に発信す。早朝井手と軍艦浪速に至り玉利司令官を訪ひ、十時帰る。是日下痢、気力頗る衰ふ。夜河野来訪。

八月二十三日 晴。朝篠崎に至り診療を受く。留守中宮坂九郎来訪せりと云ふ。夜来気体疲労、床に就て静養す。森田来訪。鳥居、狩野、巖山よりの信、並に佐々布質直、山田珠一の信至る。夜佐原篤介来訪。

八月二十四日 朝微雨。井手三郎来訪。夜秋田医士来診。

八月二十五日 晴。朝勝木恒喜、真藤駿士前後来訪。昨今来着せる者なり。辻武雄の信至る。森田、大村二人より菓子一打を贈り来る。夜藤井太七来訪。清浦奎吉、川畑豊治、米原繁蔵の信至る。

八月二十六日 晴。秋涼人に可なり。上妻博路湖南衡州よりの信至る。清浦、川畑、町野に致書す。相良利吉の信至る。河野、勝木来訪。夜島田数雄夫婦、田辺二吉来訪。田辺鳳梨六個を贈る。

八月二十七日 晴。漢口有安一雄の信至る。是日より薬を用ひず。夜島田宅を訪ふ。

八月二十八日 晴。海軍田中耕太郎の信至る。波多博、林安繁、岡幸七郎の信至る。午前篠崎医院に至り薬を取り、帰途豊陽館大村葉、森田一義を敲き、帰途井手三郎の病を問ふ。同文書院高尾藤五郎、中北捨吉虎列刺病にて二十六日死去せりと云ふ。有安、川口両生に高尾の死を報じ、高橋正二に復書す。

八月二十九日 晴。片山敏彦来訪、沙市に赴く者なり。岳翁の書、並に元山義典、上多津太郎、早川繁次、高尾茂の信至る。夜片山、御幡、村山と月ノ家に会し、十時半東和洋行に至り片山に別れて帰る。

八月三十日 雨。海軍田中耕太郎に復書す。午後吉永勘二、熊本学生某来訪。夜博愛丸に至り玉利司令官の帰国を送る。

八月三十一日 陰。夜藤井来訪。

九月一日 雨。北京西田龍太の信至る。

九月二日 微雨。西本省三の信至る。渡邊繁三来訪。夜河野来談。

九月三日 雨。海軍々令部に報告を發し、上妻博之、西本省三に復書す。有安一雄、太田重友の信至る。夜河野来談。町野晋吉の信至る。

九月四日 雨。午前西村天四、重野紹一郎を豊陽館に訪ひ、去て井手、島田を敲き正午帰る。夜河野を

訪ふ。藤井来訪。山内崑、緒方二三の信至る。

九月五日 陰。海軍々令部に報告を發し、三木に致書す。森田一義来訪。野満四郎の信至る。夜西村天囚を豊陽館に訪ひ、重野成齋博士に面す。翁本年八十一歳、欧州より帰來せる者なり。

九月六日 晴。緒方に致書し、池邊源太郎、志水源吾両友の建碑寄附三円を送る。緒方に六神丸三匣を小包にて郵寄す。郵便局に至り預金を為す。西村、重野を豊陽館に訪ひ、重野成齋翁に長沙王先謙著日本源流考一部を贈る。郵便局に至り預金を為し、村山正隆、井手三郎を訪ひ帰る。夜藤井太七を招き晚餐す。古瀬義治、河野久来訪。

九月七日 晴。海軍軍令部に報告を發す。島田数雄の件に付き旅順阿部野利恭に致書す。午前重野安繹翁、西村天囚、重野紹一等の帰国を送る。是日人力車一輛を購ふ。代価四十六元。沈文藻、馮某来訪。

九月八日 晴。午後北四川路に至り家屋を見、転じて森田一義を訪ひ五時帰る。海軍に報告を送る。

九月九日 晴。午前生田晴範、鑄方徳藏、福岡禄太郎、外一人来訪。勝木、高橋正二、町野、角田政治の信至る。午後北四川路に至り家を見る。佐原篤介を訪ふ。

九月十日 晴。午前内人と虹口一帯を巡覽し、堀扶桑、吉永を訪ひ十一時帰る。午後井手三郎、三木甚市来訪。

九月十一日 陰。前日来風邪の気味にて心緒不舒。午後姚文藻を新馬路に訪ふ。生田清範より詩稿二冊を送り来る。晡時姚氏其二子を伴ひ来訪。

九月十二日 微雨。山岡氏清、不破昌材、松田藤男、上妻博之の信至る。不破及び福州前島真に致書す。前島には閩報館焼失の見舞を述ぶ。

九月十三日 雨。真島次郎、岡次郎、田中耕太郎の信至る。野添熊太に致書し手島の人物を問ふ。熊谷直亮の信至る。夜藤井、河野来訪。

九月十四日 晴。清子を携へ文路に至り玩具を購ふ。午後野尻三蔵、森田一義、篠崎都香佐来訪。夜古瀬義治来訪。

九月十五日 晴。七時より北郊に出獵す。鷺二羽を獲て九時帰る。林出賢二郎来訪。午後林出を豊陽館に訪ふ。二年以上伊犁に在りし者にて、今度又た彼地に赴く者なり。重慶白須直の信至る。

九月十六日 晴。米原繁蔵、高尾茂に復書す。平井徳藏、有安、前島、上妻の信至る。真島次郎、熊谷直亮、根津一に致書す。晩藤井、古瀬を招き会食す。河野来訪。是日より三井に家具保険二千両を申込み其証書を受取る。

九月十七日 晴。岳翁に致書。海軍田中に致書す。夜河野来訪。

九月十八日 微雨。川口市之助、田中、川本静夫、緒方二三、白岩龍平の信至る。

九月十九日 雨。鳥居赫雄、西本省三の信至る。

九月二十日 雨。大川愛次郎、鳥居赫雄の信至る。森田一義来訪。夜河野、藤井来訪。

九月二十一日 晴。鳥居、柳原、緒方、上妻の信至る。緒方、大川に復書す。内人と島田数雄宅を訪ふ。是夜陰曆八月望前一日、月色殊に佳なり。十時帰る。

九月二十二日 晴。六時北郊に獵す。僅に鷺一羽を獲、九時帰る。午後川本静夫来訪、当地大倉洋行の社員として來任せる者なり。川本、藤井を留め晩食す。是日八月望中秋の令節たり。

九月二十三日 晴。午後郵便局、領事館、井手を訪ひ五時帰る。上妻博路の信至る。

九月二十四日 晴。午前森田一義來り別る。本日の船にて帰京すと云ふ。正午出て送る。古城貞吉、波多博の信至る。午後松岡玄雄来訪。

九月二十五日 微雨。野添熊太の信至る。

九月二十六日 半晴。午後川本、宝妻を訪ふ、在らず。赤松慶太並に安達謙造母堂の訃到る。夜河野来訪。

九月二十七日 微雨。阿南鎮民萍郷より、野満四郎北京よりの信至る。午後汪康年来訪、日前北京より

帰来せりと云ふ。相見ざる四年なり。四時辞去。松岡来訪。共に出て姚文藻を訪ひ、五時帰る。

九月二十八日 晴。海軍々令部に報告を送る。午後河野と山西路の家屋を見る。川畑豊治、莊村秀雄の信至る。午後郵便局に至り投函す。岳翁の信書に接す。夜藤井来訪。

九月二十九日 晴。上妻博路台北よりの信至る。午後佐原篤介の茶話会に赴く。井手、小泉、黒川、村山及び余の六人なり。五時散ず。

九月三十日 晴。午後河野来訪。夜藤井来談。

十月一日 晴。朝山西路の家屋を視る。午後平山周来訪、本日来着せりと云ふ。太田重知、田中の信至る。

十月二日 雨。午後佐原篤介を訪ふ。夜古瀬来訪。

十月三日 微雨。自来火、自来水会社に転居を報じ、為替貯金管理支所並に熊本、土屋、岡に転居を報ず。井手来訪。山内崙より其内人の死を報じ来る。

十月四日 雨。朝より山西路第三号に遷移す。古瀬義治、吉永勘二来り助力す。安南鎮民の信至る。

十月五日 晴。自来火工人来り自来火を安排す。熊谷直幹、野満四郎、外務留学生一名来訪。河野久太郎来訪。長崎児玉右二より瓦煎餅一箱を贈り来る。夜出て高洲太助を大利丸に送り十一時半帰る。高洲は長沙領事として赴任する者なり。是夜平山周を豊陽館に訪ふ。

十月六日 晴。日曜日。午前汪康年を静安寺路に訪ふ。張元済来会。帰途姚文藻を新馬路に訪ふ。李家鏊に会晤す。

十月七日 陰。山内崙に其の夫人の死を弔し奠儀三円を贈り、安達謙蔵母堂の弔詞に奠儀一円を添へて郵送す。午前大倉洋行に至り額、鏡、畳を譲受け、帰途井手を訪て帰る。張元済、吉永来訪。

十月八日 雨。

十月九日 晴。大倉洋行に自来火管其他を送る。井手三郎、平山周来訪。

十月十日 晴。

十月十一日 陰。軍令部、西村天四郎、田辺二吉、林出賢、荒木七十郎、森田一義の信至る。午前出て藤椅子五脚を購ふ。夜藤井来訪。

十月十二日 雨。午前安河内弘、香月梅外、河野久太郎来訪。安、香二人は本朝帰着せりと云ふ。河口市之助、森茂の信至る。夜香月を河野の寓に訪ふ。

十月十三日 晴。午前森崎、野満、那須来訪。土屋、宇野海作の信至る。土屋に致書す。安河内、香月、河野、松島、島田夫婦来訪。

十月十四日 晴。午前清子を携へ篠崎医院に至り受診す。午後加藤要来訪。

十月十五日 晴。海軍に報告。井手友喜に其妻君の弔詞、奠儀を送り、長崎児玉右二に致書す。佐野直喜に致書す。午前郵便局に至り、転じて領事館に永瀧、村山を訪ひ、帰途井手を一訪して帰る。藤本親信の信至る。午後根津来訪。之に途に遇ふ。英租界に至り時計を購ひ、瀛華洋行にて写真挾を買て帰る。古屋勝太郎来訪。夜河野久来訪。安河内、松島来談、十時去る。岫巖永尾龍蔵の信至る。

十月十六日 晴。午前三時起床。香月梅外と江湾附近に猟す。僅に鳩一羽を獲て十二時帰る。午後村山正隆、永瀧久吉を訪ふ。時報に余の名義を出し記事監督の事を引受け呉れよとの相談を受く。夜香月を訪ふ。

十月十七日 微雨。同文書院奈須、松岡、及び新学生田中、甲斐、外一名来訪。午後阿南鎮民来る。南清の旅行より帰来せる者。桃源石、大冶の鉄鉞、湘筆二枝、岳麓山の楓葉を持贈す。二時出て吉田順蔵を訪はんとし、其家を覓むれども得ず。村山正隆、外一名来訪。夜安河内来談。岡幸七、内田友義、井手友喜等の信至る。

十月十八日 雨。香月、河野、井手三人を午餐に招く。菊八鉢を購ふ。夜家族と古閑次郎の招きに日本人倶楽部に赴く。八時半辞して佐原宅の無名会に出席す。会者井手、小泉、神崎、佐原、村山、黒川、

及び客員香月梅外、平山周の二人なり。十一時散ず。大谷藤次郎の信至る。

十月十九日 晴。中島裁之露都よりの信至る。岡次郎の信至る。阿南鎮民、五島聰千代、藤井太七等来訪。

十月二十日 晴。午前香月梅外の福州行を送る。午後波多博来訪。夜熊谷来談。

十月二十一日 陰。生田清範、佐々布質直、御幡雅文、岡次郎、西村天囚に致書す。民団の課金三弗を納む。領事館に至り晌午帰る。午後発熱骨節疼痛を覚ふ。就褥。平山周来訪。

十月二十二日 陰。休養。佐野直喜の信至る。

十月二十三日 晴。午前松本清司来訪、昨日旅行より帰来せりと云ふ。

十月二十四日 晴。午前郵便局、井手、篠崎に抵り正午帰る。井手友喜の信至る。午後北四川路に至り物品数様を購ふ。河野久太郎来訪。海軍々令部より十一、十二、一、三ヶ月分の手当を送り来る。

十月二十五日 雨。夜藤井来訪。

十月二十六日 雨。

十月二十七日 雨。日曜。根津一、大村文学士、三宮勝平来訪。是日赤谷由介に致書し、海軍々令部に報告を送り、外に手当領収書を郵致す。夜井手の招邀に杏花楼に赴く。会する者原田朝日通信員、村山、佐原、堀、島田、余、及び上海日報社員全部なり。八時散ず。

十月二十八日 雨。山内崑の信至る。夜安河内来訪。

十月二十九日 晴。午後福利公司に至り清子の洋服類を購ふ。

十月三十日 晴。午前郵便局に至り河口介男に共済生命保険の□金十五円を郵送す。帰途井手を訪ふ。午後平山周来訪。二時領事館村山正隆の処に於て時報館主狄楚青並に村山、堀立会の上時報を余の名義の下に移すことを契約す。夜藤井来訪。

十月三十一日 晴。午前理髮後平山周、井手三郎等を訪ふ。正午狄平の招邀に旅泰館に赴く。村山、堀以下支那人三人来会。二時半帰る。佐々木武蔵、松本清司来訪。松本晚餐後去る。児玉右二の信至り国旗二旒を送り来る。町野晋吉の信至る。

十一月一日 晴。午後白岩龍平来訪。橘三郎に致書す。

十一月二日 陰。夜同文書院熊本県学生来訪。

十一月三日 微雨。天長節。家族と馬車にて新築日本小学校落成式並に居留民団の成立式に臨む。午後軍艦浪速の祝賀会に列し、帰途領事宅のアットホームに臨み五時帰る。夜白岩、井手来談。藤井、古瀬、清浦等来訪。

十一月四日 微雨。軍令部田中に致書す。午後井手と同文書院根津の招邀に赴く。林公使亦来会。六時辞帰。藤井太七、安河内弘来訪。

十一月五日 晴。熊谷直亮、太田大次郎に致書す。内田友義に復書す。午後

十一月六日 晴。午前根津一の帰国を送る。白岩をアストルハウスに訪ふ、在らず。正午帰る。頭痛。停車場附近に散歩す。夜松島、藤井来訪。

十一月七日 半晴。船越静一に致書す。河野を訪ふ。軍令部田中、長沙生田の信至る。

十一月八日 晴。早朝河野とアストルハウスに至り白岩を誘ひ、馬車にて徐家滙東裕製革会社に至り古庄弘、平田彦熊等を誘ひ、帰途李鴻章の祠堂に至り銅像を觀、十二時帰る。午後町野晋吉、上妻博路、清浦奎吉来訪。町野、上妻は昨日来着せりと云ふ。土宜を贈る。池部鶴彦より素麵を贈り来る。夜古瀬生来訪。

十一月九日 晴。午前香月梅外来訪、昨日福州より帰来せりと云ふ。海軍々令部に報告を発し、河口介男に致書す。夜白石の招邀に六三亭に赴く。来客は井手、関根船長、篠崎、佐原、秦、香月、河野、澤村、小幡、及び予なり。関根船長の催眠術を觀る。九時帰る。

十一月十日 晴。午前出て平山周を訪ひ、井手の処に中食し、午後白岩龍平の帰国を博愛丸に送り、続

て安村介一の来着を迎へ、共に豊陽館に至り安村少佐と会食し、八時帰る。安河内来談。

十一月十一日 晴。午前安村少佐と軍艦宇治に至り古川艦長以下の士官に面し、帰途伏見艦に至り井手艦長を訪ひ、十一時帰る。午後古瀬と北京路に至り甲掛、靴を購ふ。夜篠崎の招邀に赴く。来客は伊東工学博士、黒川、井手、村上貞吉、秋田、及予なり。九時帰る。

十一月十二日 陰。午前平山周来訪。午後渡邊繁三来談。岳翁、池部鶴彦、町野玄同氏等に致書す。

十一月十三日 晴。午前井手を訪ふ。夜河野久太郎来訪。

十一月十四日 晴。午後安村介一と大南門外護軍營に至り、滬嘉鉄道の状況を視察し、帰途新聞自来水塔を一覧し、大馬路にて安村と別れ土井伊八を訪ひ、五時半杏花楼の熊本県人会に赴く。八時散ず。

十一月十五日 晴。午前安村少佐を送る。明日宇治艦にて南清に赴く者なり。夜佐原宅の無名会に出席す。井手、神崎、小泉、山崎、平山、黒川、佐原、村山、及び余の九人なり。十一時散ず。

十一月十六日 雨。夜伊澤修二、藤山雷太、阿太廣助等の招邀に四馬路大慶楼に赴く。日清人の来客五十余名、頗る盛会たり。九時帰る。藤井太七来訪。

十一月十七日 雨。日曜日。午後村上貞吉、汪康年、宇野哲人、町野、上妻、中田等来訪。宇野は本日北清の遊を終へて帰来せる者なり。狄楚青、河口介男、田中耕太郎の信至る。

十一月十八日 雨。篠崎、内人の病を来診す。夜阿多の病を問ふ。

十一月十九日 雨。海軍に報告を發す。帰途宇野哲人を東和洋行に訪ふ。

十一月二十日 半晴。午前出て井手友喜を迎ふ。中食後帰る。

十一月二十一日 雨。熊谷直亮、米原繁蔵の信至る。午後安河内、井手友喜、熊谷直幹、田辺二吉来訪。

十一月二十二日 雨。夜河野、長尾等を訪ふ。

十一月二十三日 雨。正午香月梅外の帰国を送る。海軍田中に致書す。夜五時古河公司荻野元太郎の招邀に六三亭に赴く。来客三十余人、頗る盛会なり。八時半帰る。藤井太七来訪。澤本良臣夫婦来訪。

十一月二十四日 半晴。朝七時半村上貞吉と北郊に獵す。鳩一、小鳥二を獲、三時半帰る。森茂、廣瀬貞治、狄楚青、牧卷次郎等の信至る。

十一月二十五日 晴、寒威頓に加ふ。森茂、一宮房次郎に復書し奉天新聞の社長たることを辞す。姚文藻の兒子結婚の祝として金四円を贈る。五時姚文藻宅の宴に赴く。井手、篠崎、佐原、汪康年、陸純伯以下十余人なり。九時帰る。

十一月二十六日 陰。午後三時家族と馬車にて新馬路登賢里の姚文藻宅に赴き、其第四子の結婚式に列す。日本人にては永瀧夫婦、村山夫婦来会。男女の賓客四五十人。八時辞帰。雨。藤井、内人の病氣見舞として林檎を贈る。長尾楨二郎来訪せりと云ふ。

十一月二十七日 陰。熊谷直幹来訪。其父直亮に致す。緒方二三、阿南鎮民の信至る。五時長尾楨太郎の招邀に赴く。宇野哲人同座たり。

十一月二十八日 晴。午後停車場附近に獵し、鳩一、小鳥二を獲。西本省三、町野晋吉来訪せりと云ふ。上原宇佐太郎来訪。

十一月二十九日 晴。正午郵船会社伊東米次郎の招宴に赴く。竹越與三郎を紹介せる者なり。来会者十八九人。終はりて伊東の東道にて竹越、井手と四人小蒸気船にて黄浦江の上流に一遊して帰る。六時伊東宅の晩餐会に赴く。竹越與三、小泉土之丞、井手、及予なり。食後竹越と談じ十時辞出。井手と東和洋行に西本を訪ひ十一時帰る。

十一月三十日 晴。洋服代金の中三十円を払ふ。午後阿南鎮民、波多博来訪、晩食を饗す。夜安河内、藤井来訪。

十二月初一日 晴天。午前六時西郊に獵し、小鳥九羽を獲、三時帰る。阿多廣介、藤井太七兄弟、萩原、野満四郎、熊谷直幹等来訪。緒方二三、安達謙蔵、松本亀太郎、森茂の信至る。

十二月二日 健晴。橘三郎、白岩龍平に致書す。夜無名会に出席す。伊東工学博士、水野梅曉亦来会。

十一時散ず。町野，外一名来訪。

十二月三日 晴。午後竹越與三郎，西本省三来訪。

十二月四日 晴。海軍々令部に報告を送る。午時十時出て竹越，伊東博士，西本の帰国を送る。佐野直喜の信至る。井手の処に小談。太原武慶の来着せるを聞き之を常磐に訪ひ，正午帰る。

十二月五日 陰。

十二月六日 陰。岡幸七郎，橘三郎，北京増田高頼の信至る。緒方二三，増田高頼に復書す。夜古瀬義治来訪。

十二月七日 陰。早朝西郊に猟す。小鳥五羽を獲，正午帰る。午後清子を伴ひ瀛華洋行に至り家具を購ひ，五時帰る。野満，町野，上妻を招き晩食を饗す。夜藤井太七来訪。

十二月八日 快晴。五時半出て村上貞吉を誘ひ西郊に猟す。午後村上と分れ五時帰る。鳩三羽，啄木鳥一，小鳥三羽を獲。藤井太七を晩餐に招く。

十二月九日 晴。軍令部田中に致書す。大倉洋行に川本静夫の病を問ひ，帰途家具を購ひ五時帰る。夜河野久を訪ふ。

十二月十日 微雨。午前雲南より帰来の迫田栄太郎，高島大次郎来訪。熊谷直幹亦来る。宝妻寿作の信至る。重慶白須直，杭州上多生に致書す。午後迫田，高島，井手，永瀧，村山，佐原列を歴訪，五時帰る。

十二月十一日 晴。午前狄楚青来訪。吉田廉の信至る。午後汪康年，姚文藻を訪ふ。

十二月十二日 晴。午前水野梅暁来訪。午後車角袋の西方に出猟，鳩一，小鳥一を獲，五時帰る。夜安河内弘，福岡禄太郎来訪，十一時去る。

十二月十三日 健晴。軍令部に報告を発す。岡幸七郎，藤森茂一郎，寶妻寿作に致書す。午後井手来訪。共に郵便局に至り，帰途井手の処に小談，四時帰る。是日午前田辺二吉，熊谷直幹来訪。夜藤井太七来談。

十二月十四日 陰。土曜日。午後清子を携へ北四川路に至り靴を購ふ。

十二月十五日 晴。日曜日。午前五時起床。車袋角の西方に猟し，鳩三羽，里鵜一羽を獲，三時帰る。川本静夫来訪。島田数雄夫婦，藤井太七を招き晩餐す。渡辺繁三，田辺二吉，熊谷直幹来訪。岡次郎，川畑豊治，西本省三の信至る。

十二月十六日 陰。克堂文庫寄附金二十円を東京肥後銀行支店に匯送す。帰途井手を訪ふ。領事館に至り中畑栄，村山正隆を訪ふ。中畑は昨日来着せる者なり。夜安河内，松鳥来訪。

十二月十七日 陰。海軍々令部に報告を発す。午後宇野哲人，汪康年来訪。夜河野を訪ふ。

十二月十八日 晴。六時車袋角の西北方に出猟す。鳩二，小鳥二を獲，十一時帰る。夜阿多廣介来訪。土屋員安，上多助二の信至る。上多より□梅石刻二枚を送来。

十二月十九日 晴。午後佐久間潜蔵を東和洋行に訪ふ。帰途井手に抵り四時帰る。井手並に九州日々杜より利金を送り来る。岳翁並に梶村吉路，竹越與三郎の信至る。

十二月二十日 晴，風大。相良利吉の信至る。相良，九州日々宇野七郎，荒木七十郎，上多助二，亀井英三郎に致書す。佐久間浩，安河内弘，高橋等の帰国を送る。午後井手を訪ふ。

十二月二十一日 晴。香月梅外の信至る。

十二月二十二日 晴。心気不舒。永瀧の寓所昨夜火災に罹りしを聞き，午後行て之を訪ふ。焼く所一小部に過ぎず。中畑栄，井手友喜，熊谷等来訪。

十二月二十三日 晴。熊谷直亮の信至る。郵票五円半を其子直幹に交付す。河野久，田辺二吉等来訪。午後福利公司外一店に至り物品を購ふ。

十二月二十四日 晴。午前平井徳蔵，井手，堀等を訪ふ。夜村山，中畑の送迎会に日本人倶楽部に赴く。八時帰る。藤井太七来訪。

十二月二十五日 晴。熊谷来訪。午後平井徳蔵来訪。夜日本人倶楽部の晩餐会に出席す。内田友義、佐々布質直、池部鶴彦の信至る。

十二月二十六日 晴。藤森茂一郎より利子金三十円を送り来る。中久喜某、井手友喜来訪。夜熊谷直幹来り別を告ぐ。北清に赴く者なり。町野来訪。

十二月二十七日 晴。午後清子を携へ福利に至り玩具を購ひ、帰途東和洋行に宇野哲人、原田棟一郎を訪ひ帰る。夜中久喜を勝田館に訪ふ。留守中藤井太七、橋本長三郎来訪。漢口岡、内田に致書す。

十二月二十八日 晴。河野久、上妻来訪。午前郵便局に至り為替金三十円を受取り帰る。上妻を留め晩食す。五時井手の招邀に新泰和に赴く。藤森茂一に復書す。新泰和より帰途井手と中久喜某を華利輪船に送る。

十二月二十九日 晴。午前平井、井手を訪ふ。午後中畑栄を敲く。二時軍艦和泉を訪問し艦長山口某以下に面して帰る。晩平井徳蔵、宇野哲人、井手兄弟を招き饗す。樗木政章、同耕一來訪、寛談十時に及で去る。他出中汪康年、波多博等来訪せりと云ふ。莊村秀雄、齋藤國男の信至る。

十二月三十日 晴。午前和泉艦長山口九十郎来訪。蘇州辻、高田、佐々木に致書す。午後家具を購ひ、帰途樗木政章を東和洋行に訪ふ。夜阿多廣介来談。

十二月三十一日 雨。午前皿、茶、酒等を購ふ。午後時報館より歳暮として火腿二脚、新会橘一簍、袱紗一、呂宋煙二箱、並に謝金百元を送り来る。福田某並に野満、上妻、松本来訪。三人を留て晩食を饗す。新年の準備を為し十二時就寝。